Ⅱ　平成23年（2011 年）鉱工業指数の動向

1 概　　況

（1）生産動向　　－　生産指数は上昇　－

平成 23 年の生産指数（原指数）は、前年比 7.1%上昇の 93.8 となり、2 年連続で上昇した（表 1、図 1、統計表第 1 表）。

表1　鉱工業生産指数の推移

平成17年=100

	富山			全国		
	指数	前年比（%）	前期比（%）	指数	前年比（%）	前期比（%）
暦年推移（原指数）						
平成19年	100.7	▲ 0.5	－	107.4	2.8	－
20年	97.8	▲ 2.9	－	103.8	▲ 3.4	－
21年	74.7	▲ 23.6	－	81.1	▲ 21.9	－
22年	87.6	17.3	－	94.4	16.4	－
23年	93.8	7.1	－	92.2	▲ 2.3	－
平成23年四半期別推移（季節調整済指数）						
Ⅰ 期	99.4	－	13.6	92.8	－	▲ 1.5
Ⅱ 期	93.9	－	▲ 5.5	88.9	－	▲ 4.2
Ⅲ 期	92.2	－	▲ 1.8	93.7	－	5.4
Ⅳ 期	90.7	－	▲ 1.6	94.1	－	0.4

注：全国指数は「経済産業省　鉱工業指数」から転載

図1 鉱工業指数(四半期季節調整済 平成17年=100)

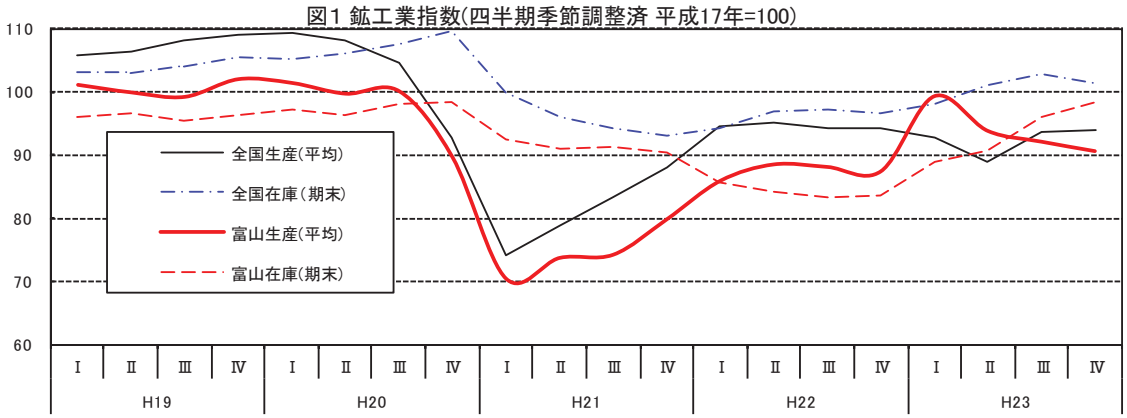


表2　生産指数（年平均）

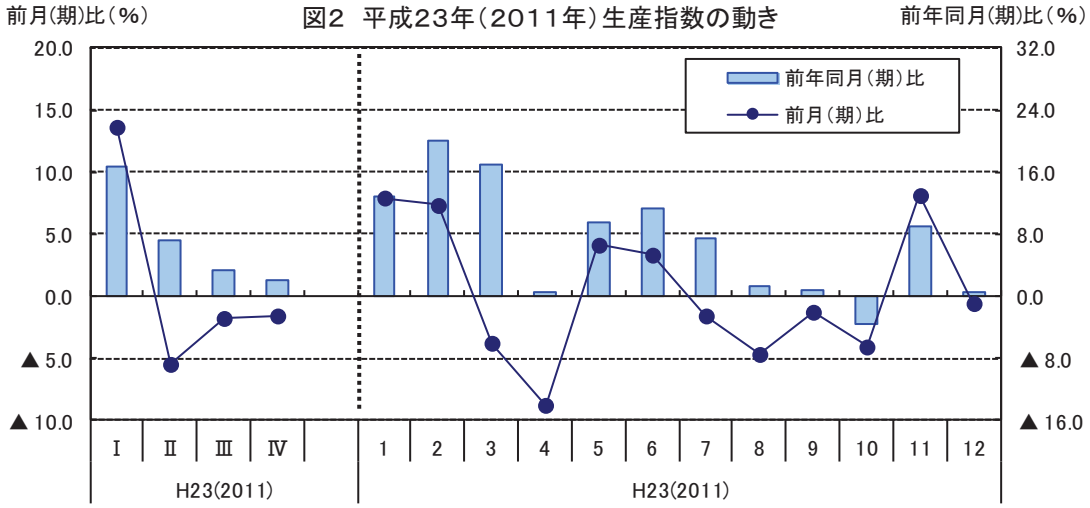
平成17年＝100

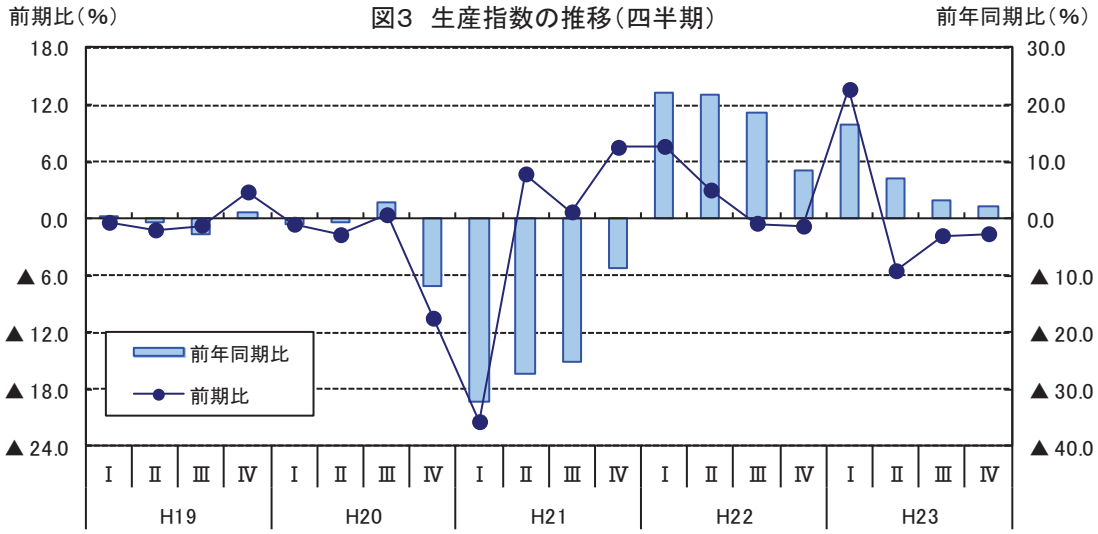
	富山県	年平均指数(原指数)		前年比	寄与度	全国(参考)
	ウェイト	22年	23年	(%)	(%point)	ウェイト
鉱工業	10000.0	87.6	93.8	7.1	7.08	10000.0
製造工業	10000.0	87.6	93.8	7.1	7.08	9979.0
鉄鋼業	349.5	84.9	92.5	9.0	0.30	599.7
非鉄金属工業	443.7	83.3	84.1	1.0	0.04	211.7
金属製品工業	1134.9	80.6	82.5	2.4	0.25	566.8
一般機械工業	1225.6	92.3	114.0	23.5	3.04	1318.2
電気機械工業	2112.5	68.3	44.3	▲ 35.1	▲ 5.79	1840.0
輸送機械工業	342.4	81.4	68.2	▲ 16.2	▲ 0.52	1685.8
窯業・土石製品工業	236.9	87.8	90.0	2.5	0.06	293.0
化学工業	2034.0	118.7	159.4	34.3	9.45	1181.3
医薬品	1088.8	149.3	223.6	49.8	9.23	358.3
プラスチック製品工業	471.9	71.3	70.9	▲ 0.6	▲ 0.02	383.7
パルプ・紙・紙加工品工業	467.6	85.0	86.3	1.5	0.07	241.0
繊維工業	358.4	62.8	61.4	▲ 2.2	▲ 0.06	200.9
食料品工業	265.3	99.5	102.0	2.5	0.08	721.2
その他工業	557.3	86.8	88.4	1.8	0.10	533.9
（参考）						
産業総合(鉱工業、電力・ガス事業)	11108.5	87.8	94.1	7.2	7.99	10424.2
電力・ガス事業	1108.5	89.8	97.5	8.6	0.97	424.2

※ 寄与度 ＝ $\frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$

平成 23 年の生産の動きを四半期別にみると、生産の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 13.6%と上昇したが、Ⅱ期▲5.5%、Ⅲ期▲1.8%、Ⅳ期▲1.6%と 3 期連続で低下した。

また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 16.6%、Ⅱ期 7.1%、Ⅲ期 3.2%、Ⅳ期 2.0%と平成 22 年Ⅰ期から 8 期連続で前年を上回った（図 1、図 2、図 3）。





業種別にみると、製造工業 13 業種中、化学工業、一般機械工業、鉄鋼業など 9 業種が上昇し、電気機械工業、輸送機械工業など 4 業種が低下した（表 3、図 4、図 5、図 6、詳細は「2 業種別動向」を参照）。

生産指数（原指数）全体の上昇に最も影響を与えたのは化学工業（寄与度 9.45）で、医薬品などの増加により、前年比 34.3%上昇の 159.4 となった。ついで、一般機械工業（寄与度 3.04）が、金属工作機械などの増加により前年比 23.5%上昇の 114.0 となった。

一方、低下に最も影響を与えたのは電気機械工業（寄与度▲5.79）で集積回路などの減少により、前年比▲35.1%低下の 44.3 となった。次いで、輸送機械工業（寄与度▲0.52）が自動車ボデーなどの減少で前年比▲16.2%低下の 68.2 となった（表 2、表 3、図 4、図 5、図 6）。

表3　業種別生産指数上昇・低下一覧（寄与度の高い順）

	業　　種	寄与度(%point)	主な増加品目	主な減少品目
上昇業種	化学工業	9.45	医薬品	化学肥料
	一般機械工業	3.04	金属工作機械	—
	鉄鋼業	0.30	鋳鍛鋼品類	—
	金属製品工業	0.25	軽金属板製品	金属製建具
	その他工業	0.10	その他製品工業	精密機械工業
	食料品工業	0.08	冷凍調理品	調味料
	パルプ・紙・紙加工品工業	0.07	ダンボール・箱・袋	紙
	窯業・土石製品工業	0.06	ガラス製品	生コンクリート
	非鉄金属工業	0.04	アルミニウム圧延製品	電線ケーブル
低下業種	電気機械工業	▲ 5.79	その他電気機械	集積回路
	輸送機械工業	▲ 0.52	—	自動車ボデー
	繊維工業	▲ 0.06	染色整理	化繊・紡績
	プラスチック製品工業	▲ 0.02	その他プラスチック製品	機械器具部品

図4　業種別生産指数対前年比(原指数)の推移

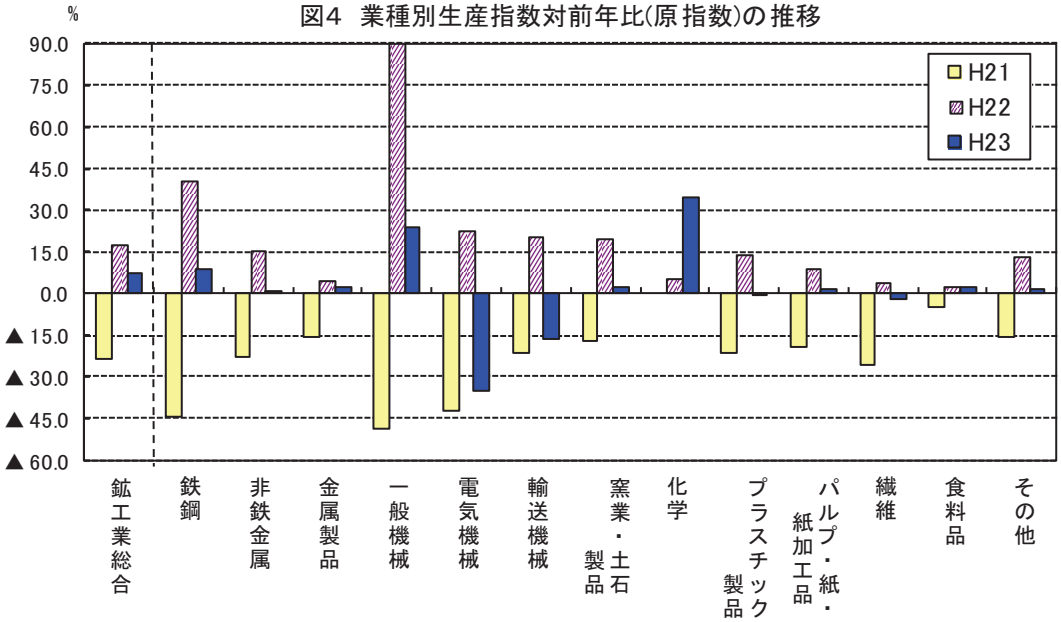


図5　業種別生産指数前年比と寄与度

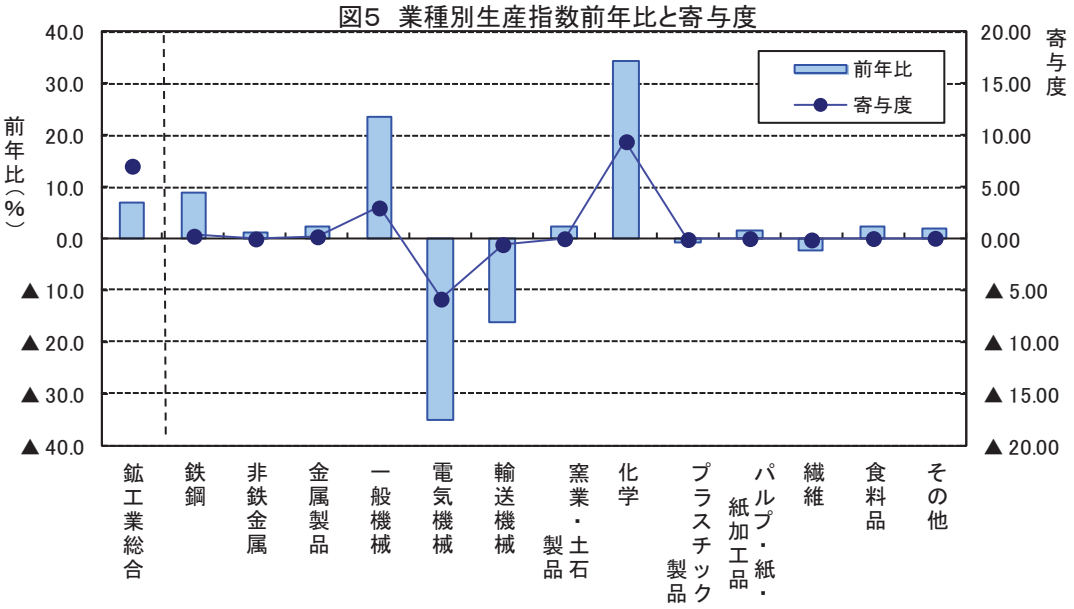
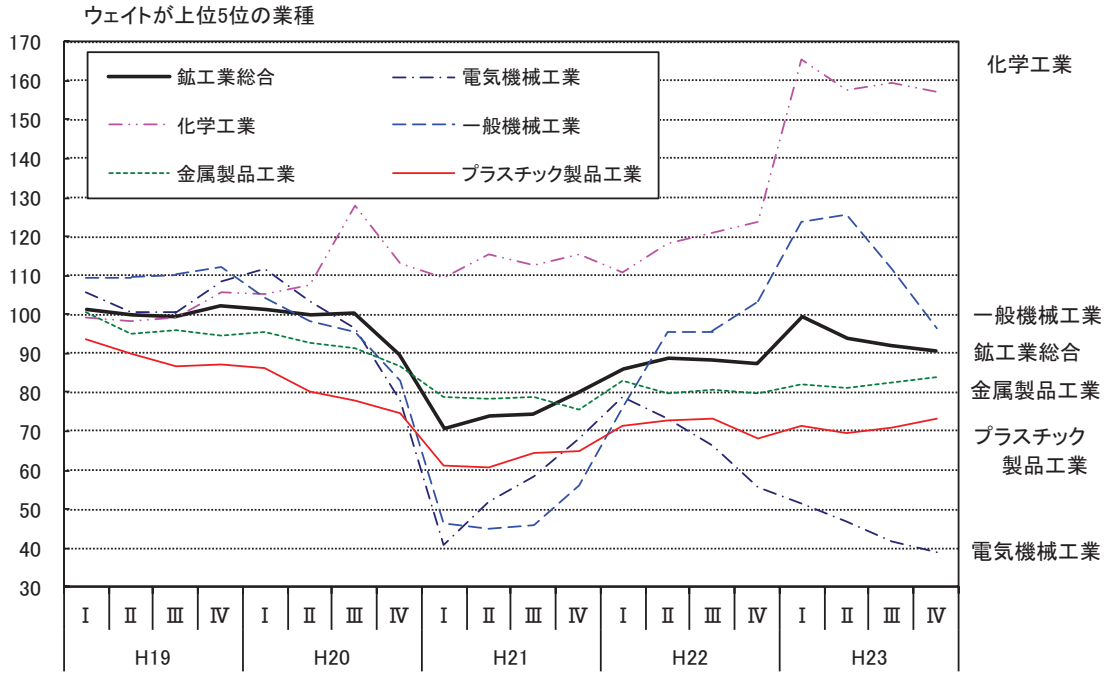


図6 生産指数(四半期季節調整済 平成17年=100)の推移



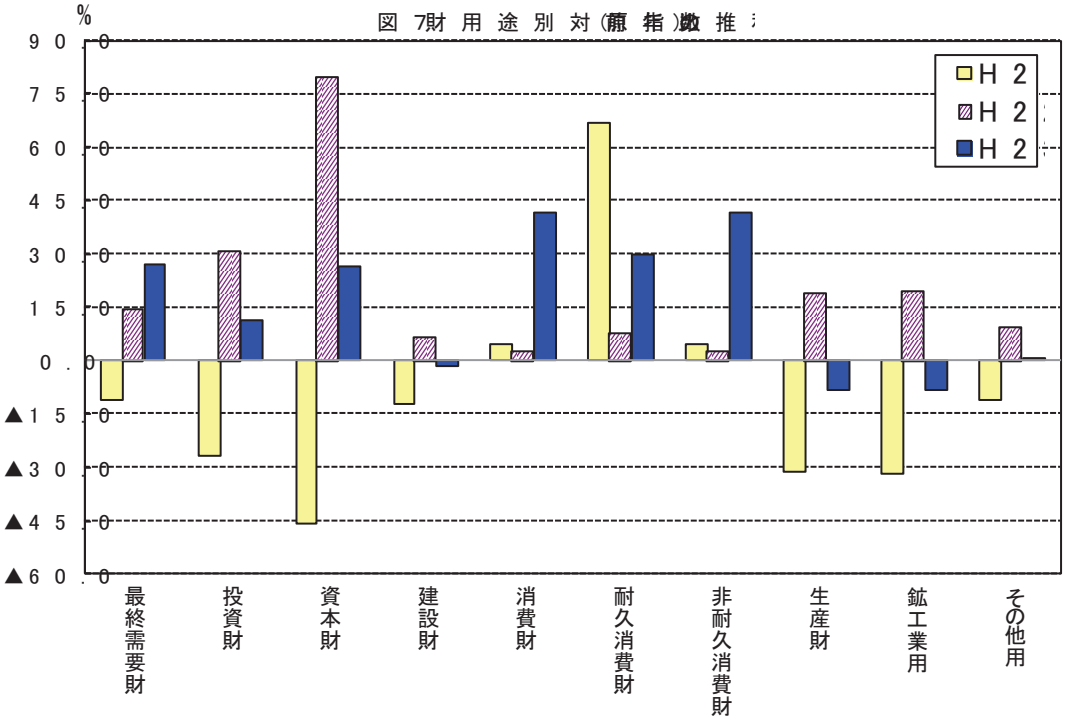
財用途別生産指数（原指数）の前年比は、生産財が▲8.0%低下したものの、最終需要財が 27.2%上昇したことにより、全体で 7.1%上昇した。

最終需要財は、投資財（寄与度 2.23）が前年比 11.1%上昇し、消費財（寄与度 9.39）が前年比 41.4%上昇したことにより、全体では 27.2%の上昇となった。

生産財では、鉱工業用生産財（寄与度▲4.64）が前年比▲8.5%の低下となった（表 4、図 7、統計表第 5 表）。

表4　生産指数（財用途分類・年平均）　　平成17年=100

	ウェイト（万分比）	年平均指数（原指数） 22年	年平均指数（原指数） 23年	前年比(%)	寄与度（%point）
鉱　工　業	10000.0	87.6	93.8	7.1	7.08
最終需要財	3498.2	107.0	136.1	27.2	11.62
投資財	2034.1	86.4	96.0	11.1	2.23
資本財	845.7	94.0	119.0	26.6	2.41
建設財	1188.4	81.0	79.6	▲ 1.7	▲ 0.19
消費財	1464.1	135.6	191.8	41.4	9.39
耐久消費財	2.0	37.3	48.4	29.8	0.00
非耐久消費財	1462.1	135.7	191.9	41.4	9.38
生産財	6501.8	77.2	71.0	▲ 8.0	▲ 4.60
鉱工業用生産財	6250.1	76.3	69.8	▲ 8.5	▲ 4.64
その他用生産財	251.7	99.3	99.6	0.3	0.01



（２）在庫動向　　―　在庫指数は上昇　―

平成 23 年の在庫指数（原指数）は、前年末比 16.6%上昇の 97.8 となり、3 年ぶりに上昇した（表 5）。

平成23年の在庫の動きを四半期別にみると、前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期6.2%、Ⅱ期 2.1%、Ⅲ期 6.1%、Ⅳ期 2.2%と平成 22 年Ⅳ期以降 5 期連続で上昇した。

また、前年同期末比（原指数）では、Ⅰ期 4.7%、Ⅱ期 7.1%、Ⅲ期 15.6%、Ⅳ期 16.6%と 4 期連続で前年を上回った（図 8、図 9）。

表5　鉱工業生産者製品在庫指数の推移　　平成17年=100

	富山			全国		
	指数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)	指数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)
暦年推移（原指数）						
19年	94.1	0.4	－	104.0	1.3	－
20年	96.0	2.0	－	109.0	4.8	－
21年	89.1	▲ 7.2	－	93.1	▲ 14.6	－
22年	83.9	▲ 5.8	－	96.6	3.8	－
23年	97.8	16.6	－	100.3	3.8	－
平成23年四半期別推移（季節調整済指数）						
Ⅰ 期	88.8	－	6.2	98.1	－	1.4
Ⅱ 期	90.7	－	2.1	101.1	－	3.1
Ⅲ 期	96.2	－	6.1	102.9	－	1.8
Ⅳ 期	98.3	－	2.2	101.5	－	▲ 1.4

図8　平成23年（2011年）在庫指数の動き

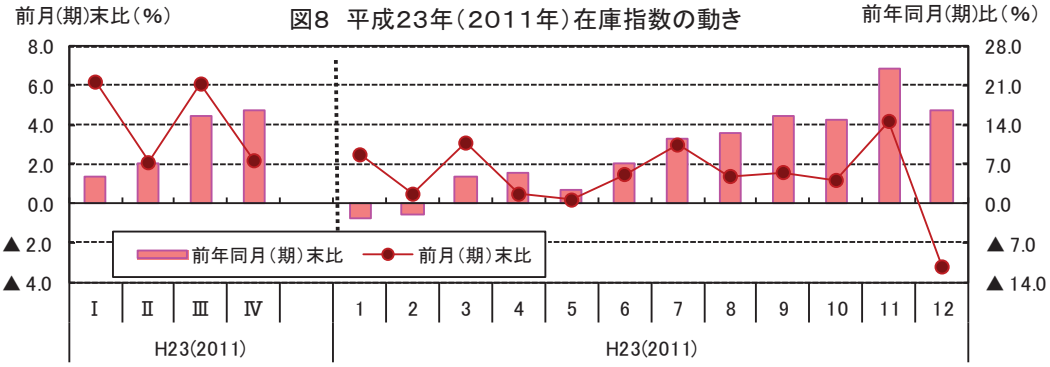


図9　在庫指数の推移（四半期）

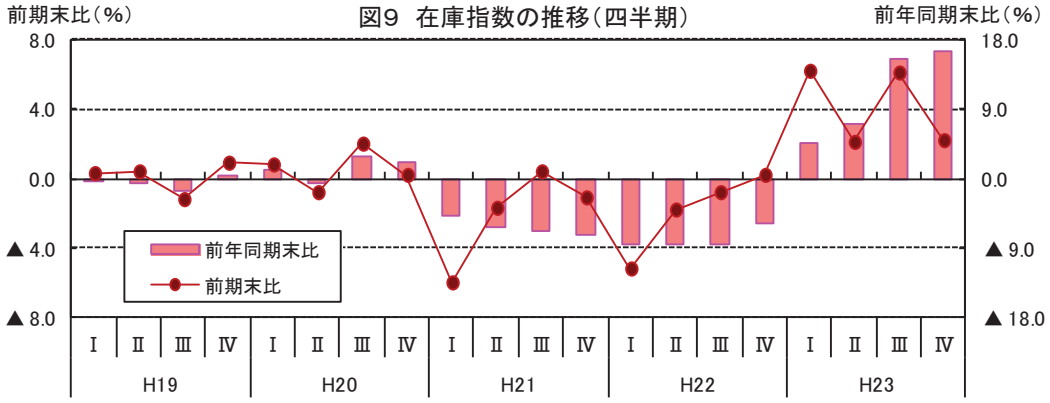


表6　在庫指数（年末）

平成17年＝100

	富山県	年末指数(原指数)		前年末比	寄与度	全国(参考)
	ウェイト	22年	23年	(%)	(%point)	ウェイト
鉱工業	10000.0	83.9	97.8	16.6	16.57	10000.0
製造工業	10000.0	83.9	97.8	16.6	16.57	9984.4
鉄鋼業	1090.7	74.2	59.8	▲ 19.4	▲ 1.87	1062.1
非鉄金属工業	826.8	74.0	83.5	12.8	0.94	276.5
金属製品工業	674.5	48.4	60.8	25.6	1.00	715.5
一般機械工業	668.5	110.8	157.6	42.2	3.73	922.2
電気機械工業	38.5	292.2	348.1	19.1	0.26	1209.5
輸送機械工業	155.9	162.0	173.9	7.3	0.22	831.9
窯業・土石製品工業	433.0	50.7	46.9	▲ 7.5	▲ 0.20	632.8
化学工業	2527.2	98.4	136.5	38.7	11.48	1534.2
医薬品	1337.1	114.9	172.8	50.4	9.23	－
プラスチック製品工業	891.3	85.5	94.4	10.4	0.95	538.6
パルプ・紙・紙加工品工業	911.5	94.2	98.5	4.6	0.47	330.7
繊維工業	521.2	75.6	77.7	2.8	0.13	422.3
食料品工業	848.1	76.6	68.5	▲ 10.6	▲ 0.82	430.8
その他工業	412.8	41.2	46.9	13.8	0.28	538.5
（参考）						
産業総合(鉱工業、電力・ガス事業)	10001.4	83.9	97.8	16.6	16.57	10000.0
電力・ガス事業	1.4	106.7	90.6	▲ 15.1	▲ 0.00	－

※ 寄与度 ＝ $\frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$

業種別にみると、製造工業 13 業種中、化学工業、一般機械工業、金属製品工業など 10 業種が上昇し、鉄鋼業、食料品工業など 3 業種が低下した（表 7、図 10、詳細は「2 業種別動向」を参照）。

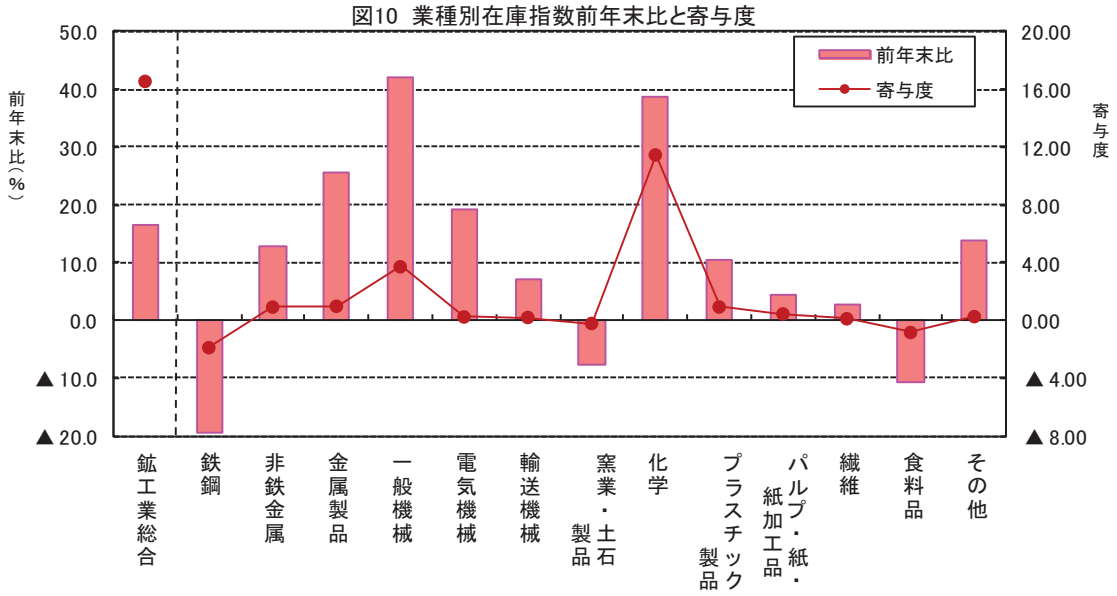
在庫指数（原指数）全体の上昇に最も影響を与えたのは化学工業（寄与度 11.48）で、医薬品などの増加により、前年末比 38.7%上昇の 136.5 となった。ついで、一般機械工業（寄与度 3.73）は軸受などの増加により、前年末比 42.2%上昇の 157.6 となった。

一方、低下に最も影響を与えたのは鉄鋼業（寄与度▲1.87）で熱間圧延鋼材などの減少により、前年末比▲19.4%低下の 59.8 となった。次いで、食料品工業（寄与度▲0.82）が飲料などの減少で前年末比▲10.6%低下の 68.5 となった（表 6、表 7、図 10）。

表7　業種別在庫指数上昇・低下一覧（寄与度の高い順）

	業　　種	寄与度(%point)	主な増加品目	主な減少品目
上昇業種	化学工業	11.48	医薬品	ソーダ工業品
	一般機械工業	3.73	軸受	金属工作機械
	金属製品工業	1.00	軽金属板製品	金属製建具
	プラスチック製品工業	0.95	日用品雑貨	フィルム・シート
	非鉄金属工業	0.94	アルミニウム圧延製品	—
	パルプ・紙・紙加工品工業	0.47	ダンボール・箱・袋	紙
	その他工業	0.28	その他製品工業	木材・木製品工業
	電気機械工業	0.26	回転・静止電気機器	—
	輸送機械工業	0.22	自動車部品	二輪自動車部品
	繊維工業	0.13	化繊・紡績	その他繊維製品
低下業種	鉄鋼業	▲ 1.87	鋳鍛鋼品類	熱間圧延鋼材
	食料品工業	▲ 0.82	乳製品	飲料
	窯業・土石製品工業	▲ 0.20	ガラス製品	セメント製品

図10　業種別在庫指数前年末比と寄与度



財用途別在庫指数（原指数）の前年末比は、最終需要財が 16.5%上昇し、生産財が 16.5%上昇したことにより、全体で 16.6%上昇した。

最終需要財では、投資財（寄与度▲1.85）が前年末比▲18.3%低下したものの、消費財（寄与度 9.07）が前年末比 26.9%上昇したことにより、全体では 16.5%の上昇となった。

生産財では、鉱工業用生産財（寄与度 9.31）が前年末比 17.5%の上昇となった（表 8）。

表8　在庫指数（財用途分類・年末）　　平成17年=100

	ウェイト	年末指数（原指数）		前年末比	寄与度
	（万分比）	22年	23年	（%）	（%point）
鉱　工　業	10000.0	83.9	97.8	16.6	16.57
最終需要財	4043.9	90.8	105.8	16.5	7.23
投資財	1411.2	60.1	49.1	▲ 18.3	▲ 1.85
資本財	241.7	90.2	92.8	2.9	0.07
建設財	1169.5	53.8	40.1	▲ 25.5	▲ 1.91
消費財	2632.7	107.3	136.2	26.9	9.07
耐久消費財	－	－	－	－	－
非耐久消費財	2632.7	107.3	136.2	26.9	9.07
生産財	5956.1	79.3	92.4	16.5	9.30
鉱工業用生産財	5660.1	78.8	92.6	17.5	9.31
その他用生産財	296.0	88.7	89.3	0.7	0.02

（３）在庫循環

富山県の在庫循環図をみると、平成 19 年Ⅰ期は「在庫減少局面」に位置し、Ⅱ期、Ⅲ期は「在庫調整局面」へ、Ⅳ期は「在庫積み増し局面」へ、平成 20 年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」と「在庫調整局面」の境目へ、Ⅱ期は「在庫調整局面」と「在庫減少局面」の境目へ、Ⅲ期は「在庫積み増し局面」と「在庫積み上がり局面」の境目へ、Ⅳ期、平成 21 年Ⅰ期～Ⅳ期は「在庫調整局面」へ移動した。平成 22 年Ⅰ期～平成 23 年Ⅰ期は「在庫積み増し局面」に、Ⅱ期は「在庫積み増し局面」と「在庫積み上がり局面」の境目付近に、Ⅲ期、Ⅳ期は「在庫積み上がり局面」に位置していた（図 11）。

また、**全国の在庫循環図**をみると、平成 19 年Ⅰ期、Ⅱ期は「在庫積み増し局面」へ、Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」と「在庫積み増し局面」の境目へ、Ⅳ期、平成 20 年Ⅰ期は「在庫積み増し局面」へ、Ⅱ期、Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」へ、Ⅳ期、平成 21 年Ⅰ期～Ⅲ期は「在庫調整局面」へ、Ⅳ期は「在庫減少局面」へ移動した。平成 22 年Ⅰ期～Ⅳ期は「在庫積み増し局面」に位置していた。平成 23 年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」に、Ⅱ期は「在庫調整局面」に、Ⅲ期、Ⅳ期は「在庫積み上がり局面」に位置していた（図 12）。

〔在庫循環図について〕

企業は、販売用製品、生産に必要な原材料を在庫として保有しており、その量を出荷・販売などの動きに応じて変化させる。この在庫は、経済活動全体としてみると生産と需要のギャップから発生し、景気変動に合わせて循環的に増減する傾向があり、この循環を在庫循環（Inventory Cycle）と呼んでいる。

この在庫循環は、在庫循環図（生産・在庫指数の原指数の前年同期比による在庫循環の４局面）として示すことができ、「在庫積み増し局面」→「在庫積み上がり局面」→「在庫調整局面」→「在庫減少局面」と景気の局面ごとに起こり、通常、時計の反対方向にグラフが推移する傾向がある（傾向変動を除去した場合）。

なお、過去の分析から、ほぼ 40 ヵ月（3～4 年）の循環を示すことが多く、「キチンの波」（キチン(Kitchin)が分析したもの）とも呼ばれる。

在庫循環の4局面とは、次のとおり。

「在庫積み増し局面」

景気が上向き需要が回復しているときには、将来の需要増を見込み、原料を手当し、製品化を急ぎ、在庫を積み増す（図 b1,b2）。

「在庫積み上がり局面」

景気の山を迎え、需要が伸び悩み、下降局面にはいると、企業の需要予測より実際の需要が下回ることになり、在庫がたまりはじめる（**意図せざる在庫投資**、図 c1,c2）。

「在庫調整局面」

需要低迷により積み上がった在庫を意図的に減らすため、減産を行う。この結果、景気の停滞・後退は進む。これが在庫調整であり、この在庫調整が終了する時期が、ほぼ景気の谷となる（図 d1,d2）。

「在庫減少局面」

景気が回復し需要が増えると、最初は生産が追いつかず需要が予測を上回り、生産を増やしても在庫が意図しないで減少する（**意図せざる在庫減局面**、図 a1,a2）。

図11 富山県の在庫循環の推移

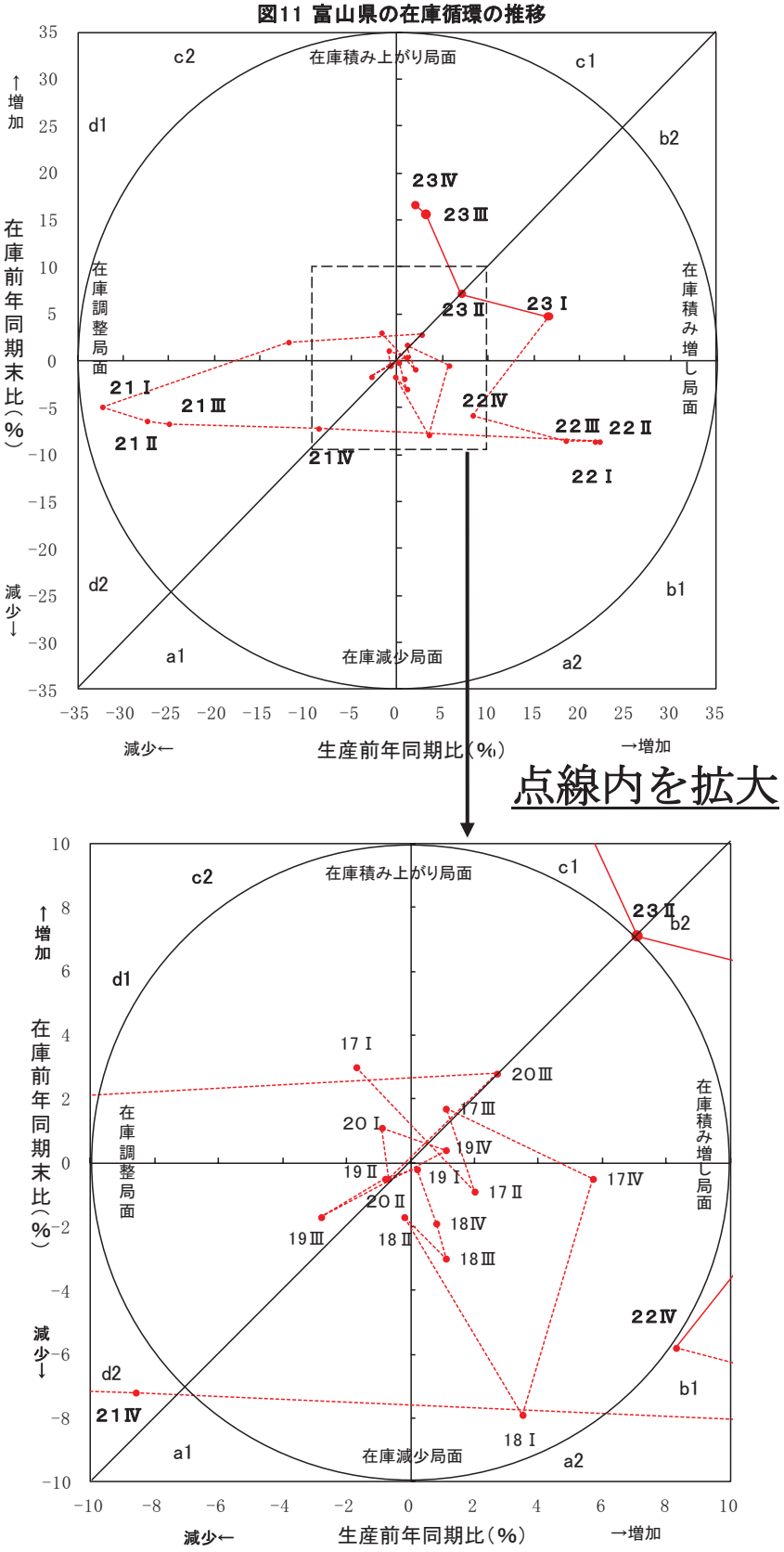
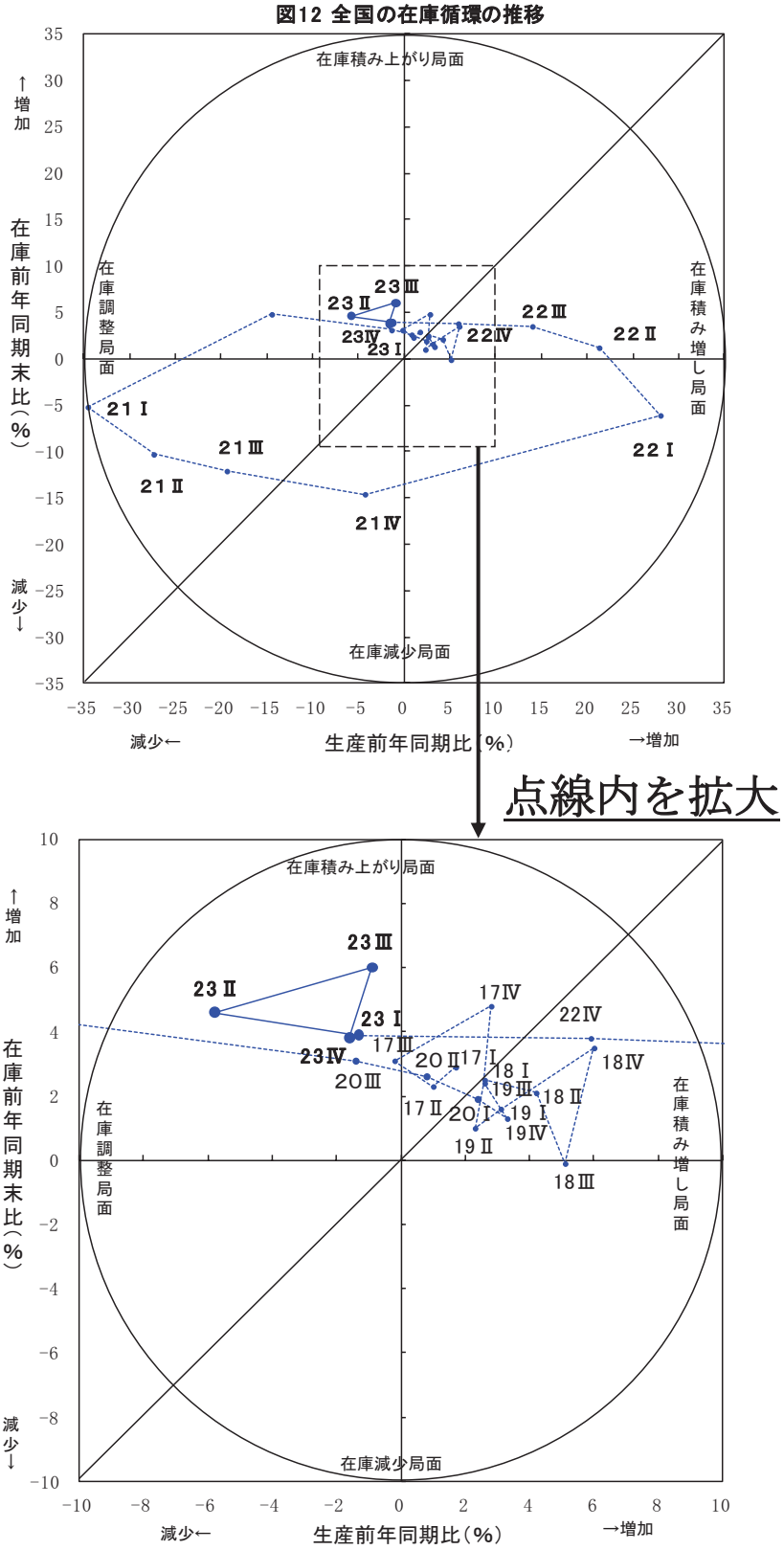


図12 全国の在庫循環の推移



2 業種別動向

（1） 鉄鋼業

① 概　況

生産指数は前年比 9.0%（寄与度 0.30）上昇の 92.5 となり、2 年連続で上昇した（統計表第 1 表)。これは、3 品目すべて（素製品(鋼半製品含)、熱間圧延鋼材、鋳鍛鋼品類）が増加したことによる（表 1)。

在庫指数は前年末比▲19.4%（寄与度▲1.87）低下の 59.8 となり、2 年ぶりに低下した。これは 3 品目中、1 品目（鋳鍛鋼品類）が増加したものの、2 品目（素製品(鋼半製品含)、熱間圧延鋼材）が減少したことによる（表 1)。

表1　品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成17年=100

	ウェイト（万分比）	生産指数(原指数) 平成22年	生産指数(原指数) 平成23年	前年比(%)	寄与度(%ポイント)	ウェイト（万分比）	在庫指数(原指数) 平成22年	在庫指数(原指数) 平成23年	前年末比(%)	寄与度(%ポイント)
鉄鋼業	**349.5**	84.9	92.5	9.0	0.30	**1090.7**	74.2	59.8	▲ 19.4	▲ 1.87
素製品(鋼半製品含)	54.7	76.2	82.7	8.5	0.04	793.1	57.1	47.7	▲ 16.5	▲ 0.89
熱間圧延鋼材	55.7	120.0	123.4	2.8	0.02	167.4	146.4	93.4	▲ 36.2	▲ 1.06
鋳鍛鋼品類	239.1	78.8	87.6	11.2	0.24	130.2	85.6	89.8	4.9	0.07

寄与度は鉱工業に対する数値

図1　鉄鋼業　月別季節調整済指数(平成17年＝100)

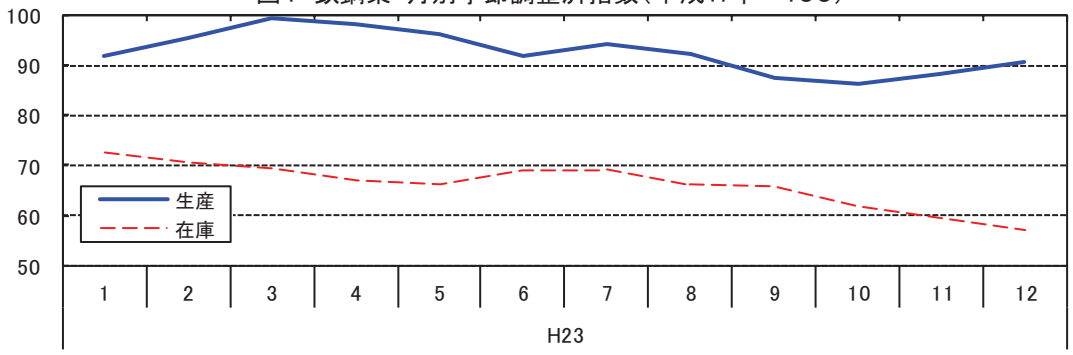
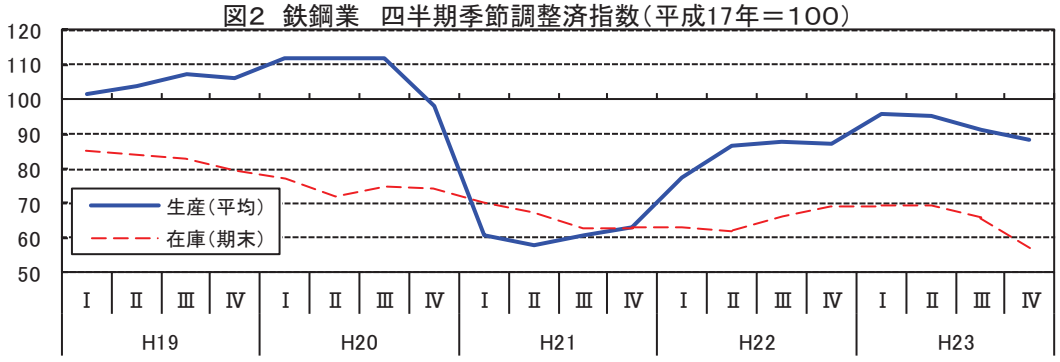


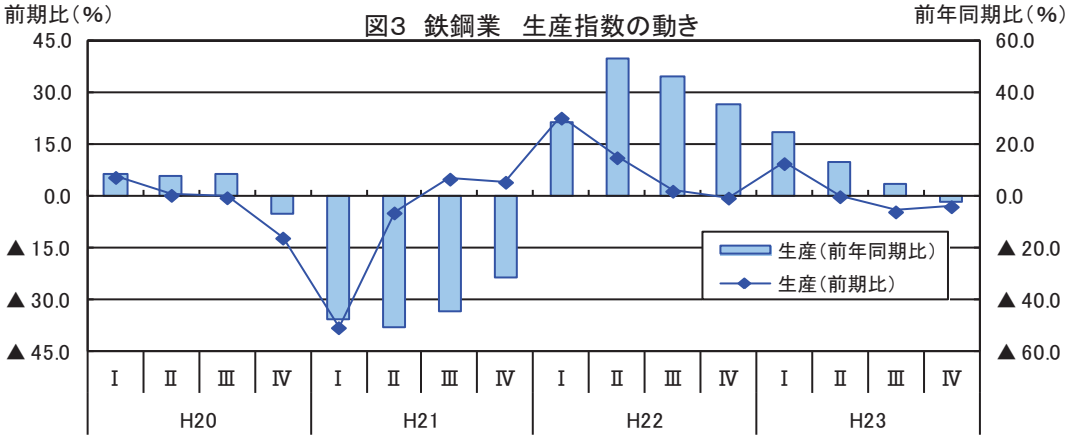
図2　鉄鋼業　四半期季節調整済指数(平成17年＝100)



② 生　産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 9.5%と上昇したが、Ⅱ期▲0.1%、Ⅲ期▲4.5%、Ⅳ期▲3.0%と 3 期連続で低下した。

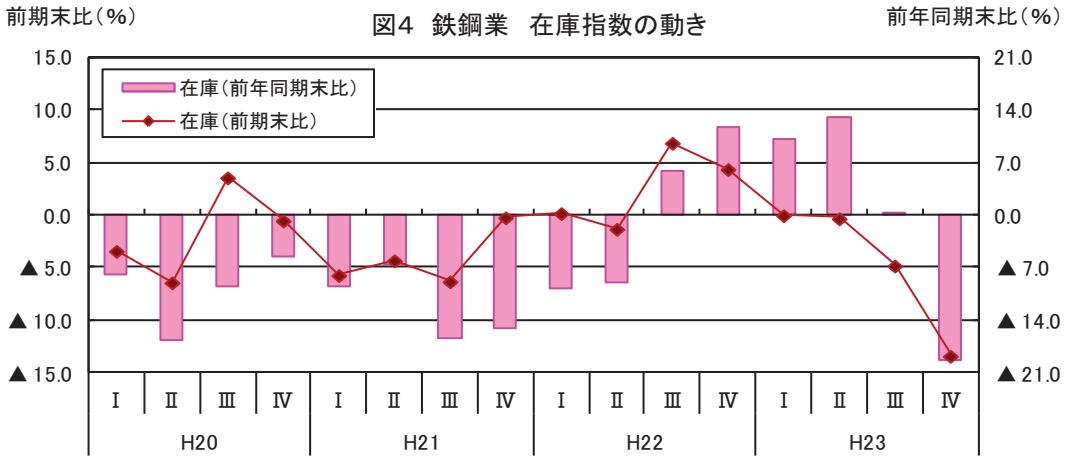
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 24.7%、Ⅱ期 12.8%、Ⅲ期 4.2%と平成 23 年Ⅰ期以降 7 期連続で前年を上回ったが、Ⅳ期▲2.3%と前年を下回った（図 3）。



③ 在　庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 0.0%と横ばいとなったが、Ⅱ期▲0.3%、Ⅲ期▲4.8%、Ⅳ期▲13.4%と 3 期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 10.1%、Ⅱ期 12.9%、Ⅲ期 0.3%と平成 22 年Ⅲ期以降 5 期連続で前年を上回ったが、Ⅳ期▲19.4%と前年を下回った（図 4）。



（２）非鉄金属工業

① 概　況

生産指数は前年比 1.0%（寄与度 0.04）上昇の 84.1 となり、2 年連続で上昇した（統計表第 1 表）。これは 7 品目中、3 品目（非鉄金属地金、電線ケーブル、その他非鉄金属製品）が減少し、1 品目（伸銅製品）が横ばいとなったものの、3 品目（アルミニウム二次精錬、アルミニウム圧延製品、非鉄金属鋳物）が増加したことによる（表 2）。

在庫指数は前年末比 12.8%（寄与度 0.94）上昇の 83.5 となり、2 年連続で上昇した。これは 5 品目すべて（アルミニウム二次精錬、非鉄金属地金、伸銅製品、アルミニウム圧延製品、その他非鉄金属製品）が増加したことによる（表 2）。

表2　品目別生産指数（年平均）・在庫指数（年末）

平成17年=100

	ウェイト（万分比）	生産指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年比（%）	寄与度（%ポイント）	ウェイト（万分比）	在庫指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年末比（%）	寄与度（%ポイント）
非鉄金属工業	**443.7**	83.3	84.1	1.0	0.04	**826.8**	74.0	83.5	12.8	0.94
アルミニウム二次精錬	31.4	69.1	70.4	1.9	0.00	197.9	28.3	34.1	20.5	0.14
非鉄金属地金	9.8	96.1	93.4	▲ 2.8	▲ 0.00	28.4	198.0	212.3	7.2	0.05
伸銅製品	13.9	88.0	88.0	0.0	0.00	133.4	84.0	89.2	6.2	0.08
アルミニウム圧延製品	310.3	81.7	82.9	1.5	0.04	464.8	82.8	94.7	14.4	0.66
電線ケーブル	16.0	112.9	99.5	▲ 11.9	▲ 0.02	－	－	－	－	－
非鉄金属鋳物	57.7	87.6	91.6	4.6	0.03	－	－	－	－	－
その他非鉄金属製品	4.6	88.6	80.2	▲ 9.5	▲ 0.00	2.3	125.1	148.8	18.9	0.01

寄与度は鉱工業に対する数値

図5　非鉄金属工業　月別季節調整済指数（平成17年＝100）

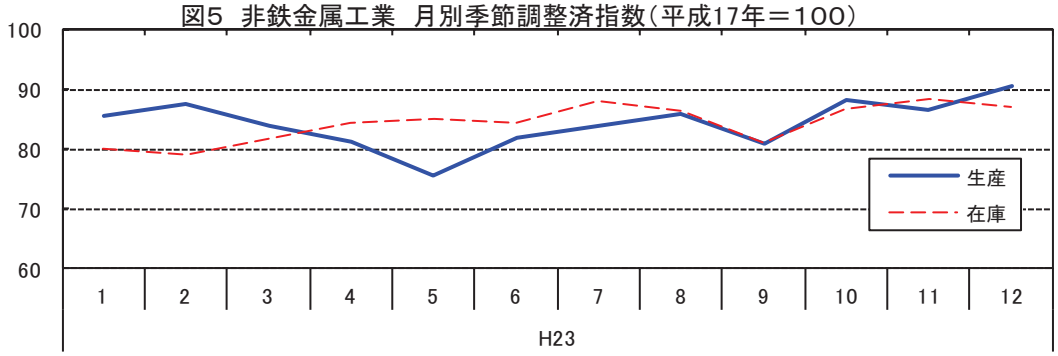
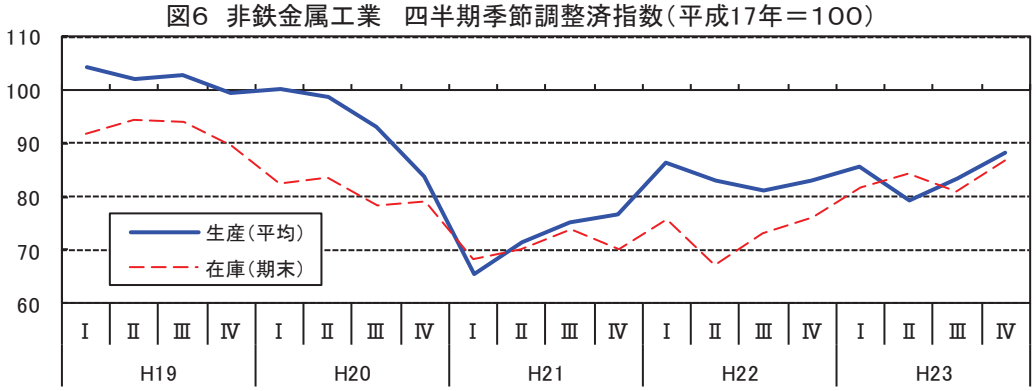


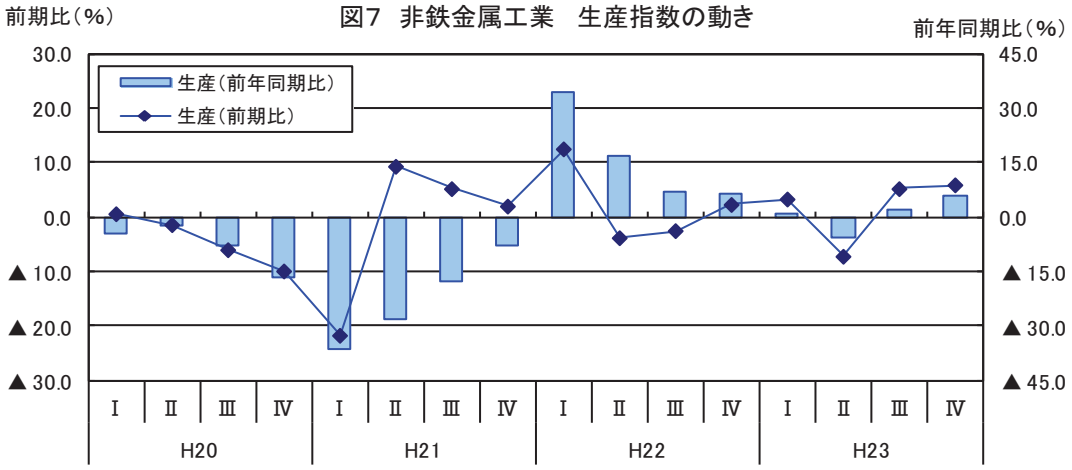
図6　非鉄金属工業　四半期季節調整済指数（平成17年＝100）



② 生　産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 3.3%と上昇したが、Ⅱ期▲7.2%と低下し、Ⅲ期 5.2%、Ⅳ期 5.9%と再び上昇した。

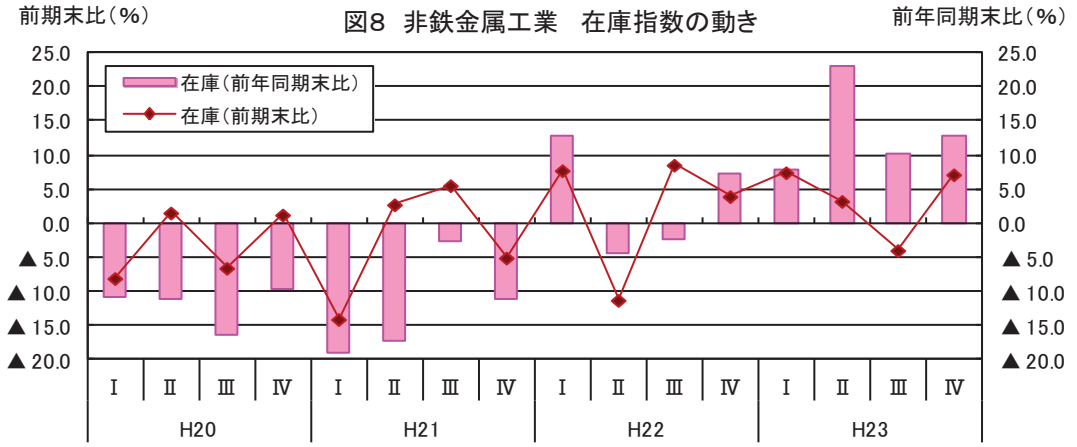
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 0.8%と平成 22 年Ⅰ期以降 5 期連続で前年を上回ったが、Ⅱ期▲5.4%と前年を下回り、Ⅲ期 2.0%、Ⅳ期 6.1%と再び前年を上回った（図 7）。



③ 在　庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 7.5%、Ⅱ期 3.3%と平成 22 年Ⅲ期以降 4 期連続で上昇したが、Ⅲ期▲3.9%と低下し、Ⅳ期 7.2%と再び上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 7.9%、Ⅱ期 23.1%、Ⅲ期 10.2%、Ⅳ期 12.8%と平成 22 年Ⅳ期以降 5 期連続で前年を上回った（図 8）。



（３）金属製品工業

① 概　況

生産指数は前年比 2.4%（寄与度 0.25）上昇の 82.5 となり、2 年連続で上昇した（統計表第 1 表）。これは 6 品目中、3 品目（鉄構物、金属製建具、ばね）が減少したものの、3 品目（軽金属板製品、管継手、その他金属製品）が増加したことによる（表 3）。

在庫指数は前年末比 25.6%（寄与度 1.00）上昇の 60.8 となり、3 年ぶりに上昇した。これは 4 品目中、1 品目（金属製建具）が減少したものの、3 品目（軽金属板製品、ばね、その他金属製品）が増加したことによる（表 3）。

表3　品目別生産指数（年平均）・在庫指数（年末）

平成17年=100

	ウェイト（万分比）	生産指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年比（%）	寄与度（%ポイント）	ウェイト（万分比）	在庫指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年末比（%）	寄与度（%ポイント）
金属製品工業	**1134.9**	80.6	82.5	2.4	0.25	**674.5**	48.4	60.8	25.6	1.00
鉄構物	60.7	98.7	93.0	▲ 5.8	▲ 0.04	－	－	－	－	－
金属製建具	838.2	80.6	79.7	▲ 1.1	▲ 0.09	511.6	37.7	26.7	▲ 29.2	▲ 0.67
軽金属板製品	108.8	68.3	92.9	36.0	0.31	66.9	128.1	304.8	137.9	1.41
管継手	13.6	77.9	90.1	15.7	0.02	－	－	－	－	－
ばね	11.6	74.6	68.5	▲ 8.2	▲ 0.01	60.9	24.0	34.8	45.0	0.08
その他金属製品	102.0	84.1	88.4	5.1	0.05	35.1	95.3	138.0	44.8	0.18

寄与度は鉱工業に対する数値

図9　金属製品工業　月別季節調整済指数（平成17年＝100）

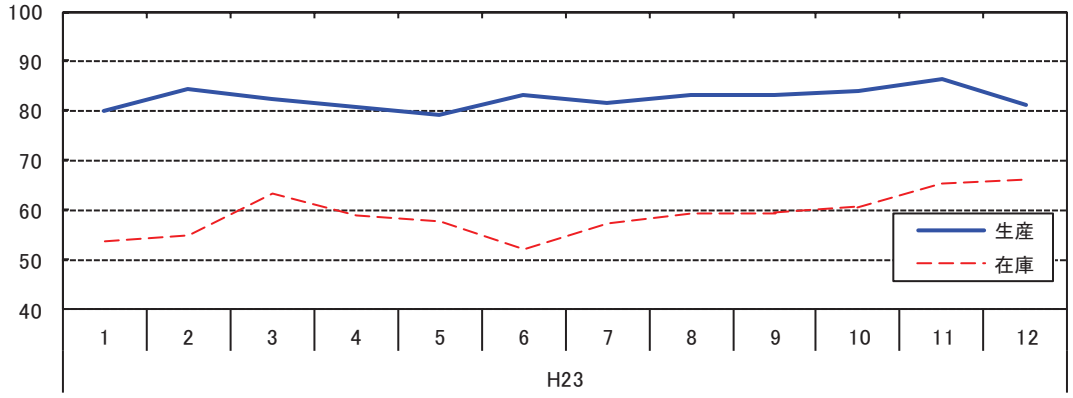
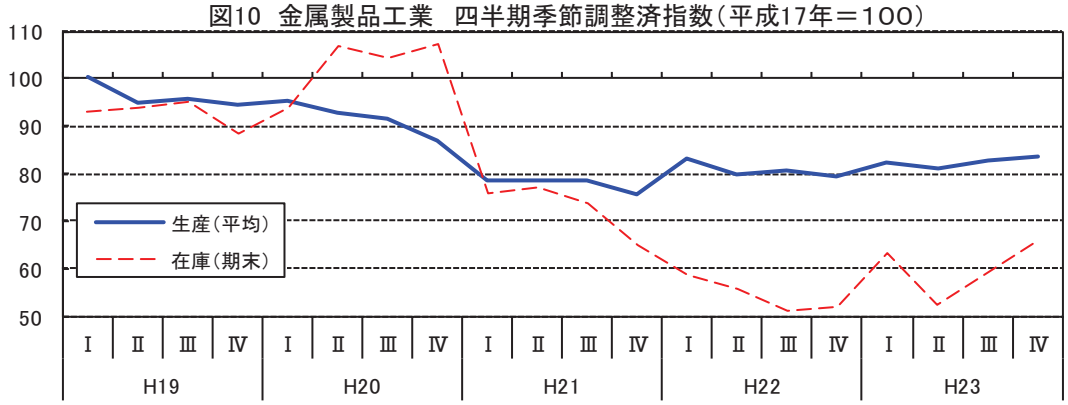


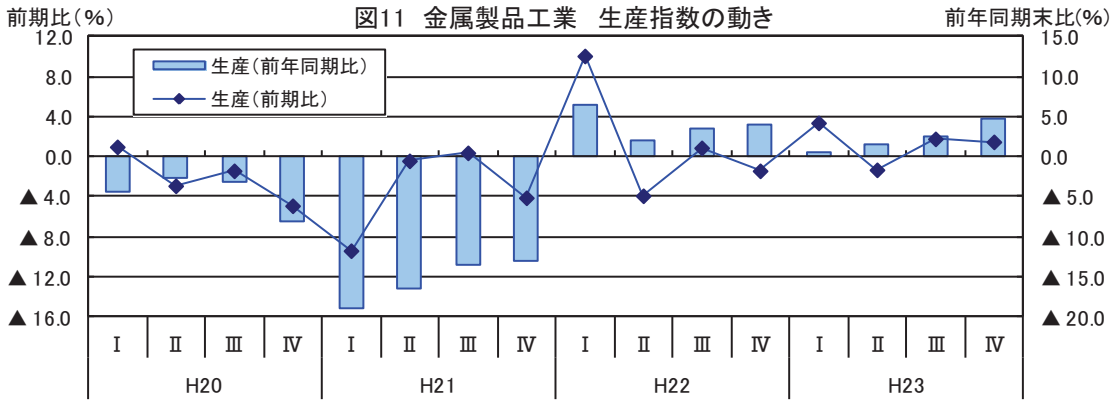
図10　金属製品工業　四半期季節調整済指数（平成17年＝100）



② 生　産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 3.4%と上昇し、Ⅱ期▲1.3%と低下したが、Ⅲ期 1.8%、Ⅳ期 1.5%と再び上昇した。

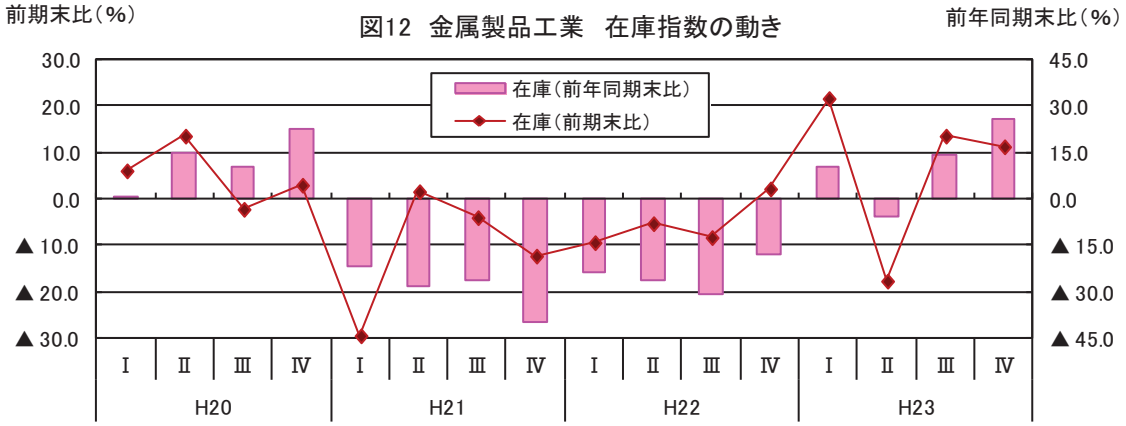
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 0.4%、Ⅱ期 1.5%、Ⅲ期 2.6%、Ⅳ期 4.7%と平成 22 年Ⅰ期以降 8 期連続で前年を上回った（図 11）。



③ 在　庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 21.7%と上昇し、Ⅱ期▲17.7%と低下したが、Ⅲ期 13.6%、Ⅳ期は 11.3%と再び上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 10.4%と前年を上回り、Ⅱ期▲6.1%と前年を下回ったが、Ⅲ期 14.2%、Ⅳ期 25.6%と再び前年を上回った（図 12）。



（４）一般機械工業

① 概　況

生産指数は前年比 23.5%（寄与度 3.04）上昇の 114.0 となり、2 年連続で上昇した（統計表第 1 表）。これは 7 品目すべて（油圧機器、軸受、ロボット・産業機械、金属工作機械、金型、機械工具、その他一般機械・部品）が増加したことによる（表 4）。

在庫指数は前年末比 42.2%（寄与度 3.73）上昇の 157.6 となり、2 年連続で上昇した。これは 5 品目中、2 品目（金属工作機械、その他一般機械・部品）が減少し、1 品目（油圧機器）が横ばいとなったものの、2 品目（軸受、機械工具）が増加したことによる（表 4）。

表4　品目別生産指数（年平均）・在庫指数（年末）

平成17年=100

	ウェイト（万分比）	生産指数（原指数） 平成22年	生産指数（原指数） 平成23年	前年比（%）	寄与度（%ポイント）	ウェイト（万分比）	在庫指数（原指数） 平成22年	在庫指数（原指数） 平成23年	前年末比（%）	寄与度（%ポイント）
一般機械工業	**1225.6**	92.3	114.0	23.5	3.04	**668.5**	110.8	157.6	42.2	3.73
油圧機器	77.1	65.3	86.2	32.0	0.18	45.1	278.2	278.2	0.0	0.00
軸受	273.6	101.6	110.2	8.5	0.27	319.1	102.2	163.4	59.9	2.33
ロボット・産業機械	326.7	92.6	117.7	27.1	0.94	－	－	－	－	－
金属工作機械	274.7	113.9	156.7	37.6	1.34	27.9	107.8	72.4	▲ 32.8	▲ 0.12
金型	83.4	56.6	58.5	3.4	0.02	－	－	－	－	－
機械工具	156.1	77.1	92.2	19.6	0.27	226.7	70.6	129.9	84.0	1.60
その他一般機械・部品	34.0	57.1	62.6	9.6	0.02	49.7	199.4	185.8	▲ 6.8	▲ 0.08

寄与度は鉱工業に対する数値

図13　一般機械工業　月別季節調整済指数（平成17年＝100）

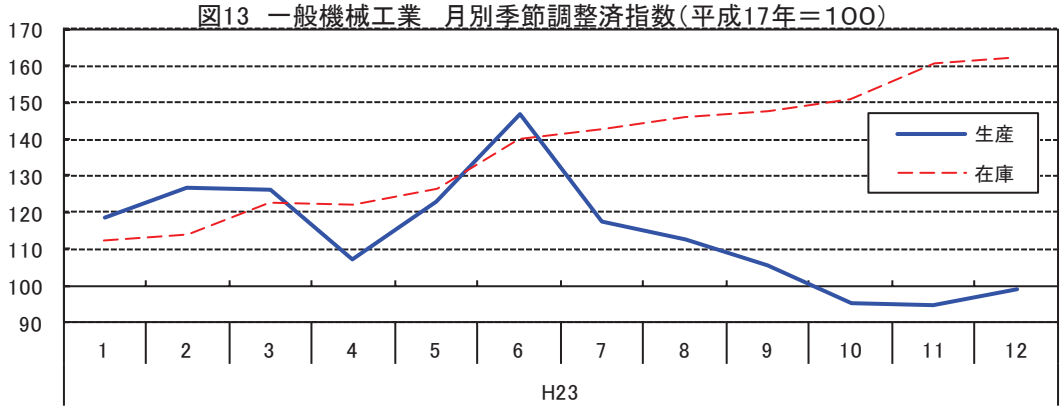
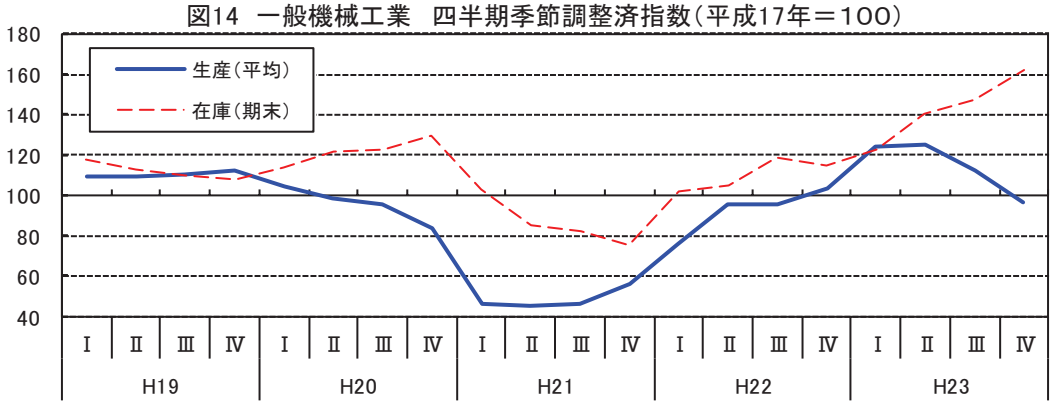


図14　一般機械工業　四半期季節調整済指数（平成17年＝100）

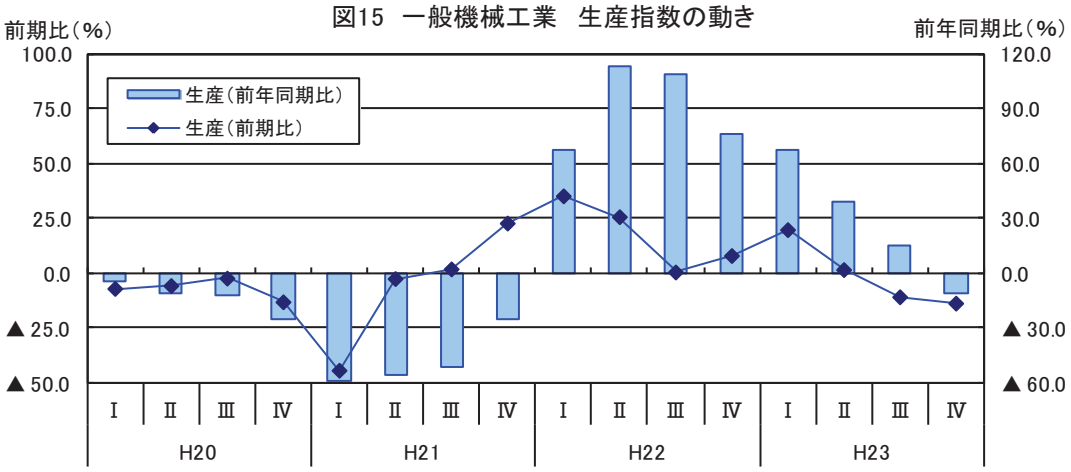


② 生　産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 19.7%、Ⅱ期 1.5%と平成 21 年Ⅲ期以降 8 期連続で上昇したが、Ⅲ期▲10.9%、Ⅳ期▲13.8%と低下した。

また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 67.4%、Ⅱ期 38.8%、Ⅲ期 14.9%と平成 22 年Ⅰ期以降 7 期連続で前年を上回ったが、Ⅳ期▲11.7%と前年を下回った（図 15）。

図15　一般機械工業　生産指数の動き

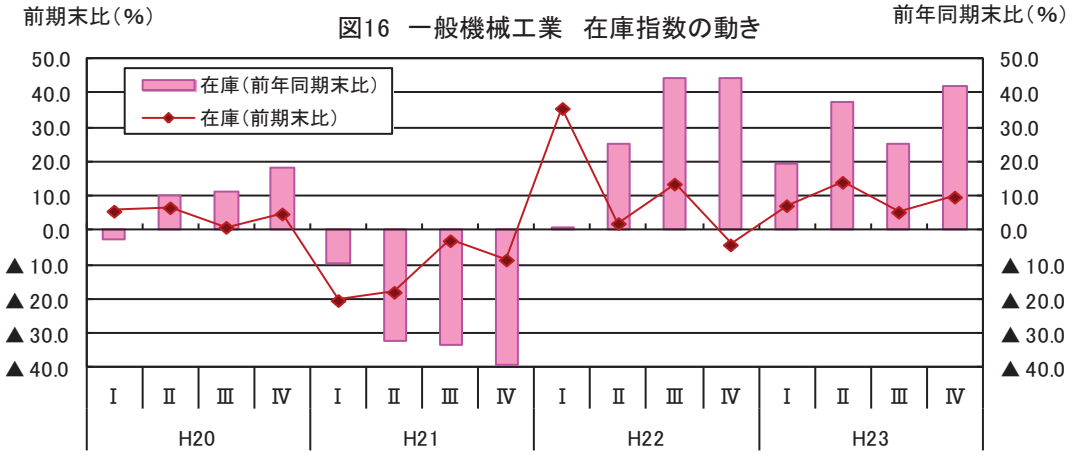


③ 在　庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 7.4%、Ⅱ期 14.2%、Ⅲ期 5.5% Ⅳ期 9.9%と 4 期連続で上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 19.5%、Ⅱ期 37.2%、Ⅲ期 25.3%、Ⅳ期 42.2%と平成 22 年Ⅰ期以降 8 期連続で前年を上回った（図 16）。

図16　一般機械工業　在庫指数の動き



（５）電気機械工業

① 概　況

生産指数は前年比▲35.1%（寄与度▲5.79）低下の 44.3 となり、2 年ぶりに低下した（統計表第 1 表）。これは 6 品目中、1 品目（その他電気機械）が増加したものの、5 品目（回転・静止電気機器、半導体、集積回路、抵抗器、電子部品）が減少したことによる（表 5）。

在庫指数は前年末比 19.1%（寄与度 0.26）上昇の 348.1 となり、3 年ぶりに増加した。これは 2 品目すべて（回転・静止電気機器、半導体）が増加したことによる（表 5）。

表5　品目別生産指数（年平均）・在庫指数（年末）

平成17年=100

	ウェイト（万分比）	生産指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年比（%）	寄与度（%ポイント）	ウェイト（万分比）	在庫指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年末比（%）	寄与度（%ポイント）
電気機械工業	**2112.5**	68.3	44.3	▲ 35.1	▲ 5.79	**38.5**	292.2	348.1	19.1	0.26
回転・静止電気機器	66.7	73.6	73.1	▲ 0.7	▲ 0.00	28.6	158.5	207.9	31.2	0.17
その他電気機械	44.3	88.1	124.7	41.5	0.19	－	－	－	－	－
半導体	46.5	40.9	32.6	▲ 20.3	▲ 0.04	9.9	678.4	753.0	11.0	0.09
集積回路	1359.8	52.4	17.6	▲ 66.4	▲ 5.40	－	－	－	－	－
抵抗器	61.7	116.2	110.9	▲ 4.6	▲ 0.04	－	－	－	－	－
電子部品	533.5	103.2	95.6	▲ 7.4	▲ 0.46	－	－	－	－	－

寄与度は鉱工業に対する数値

図17　電気機械工業　月別季節調整済指数（平成17年＝100）

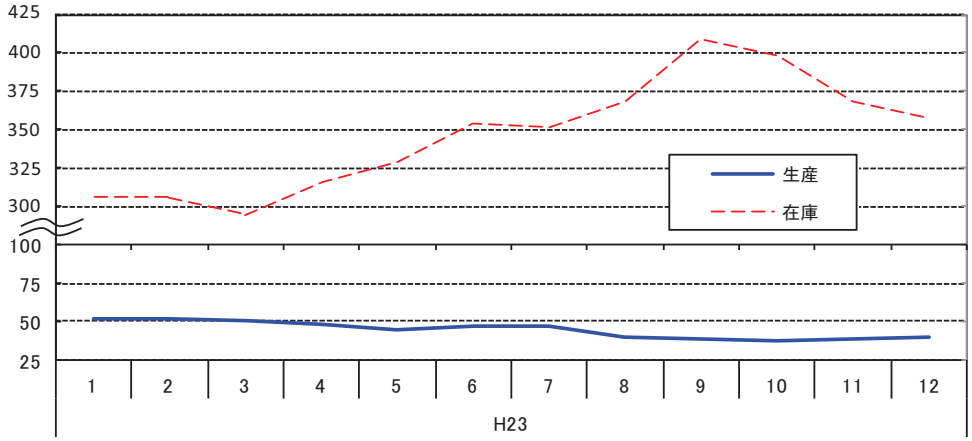
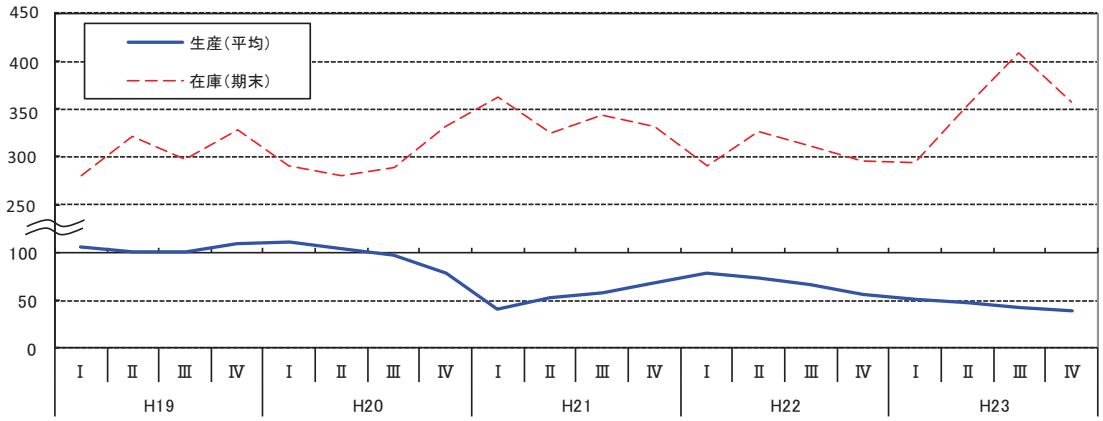


図18　電気機械工業　四半期季節調整済指数（平成17年＝100）

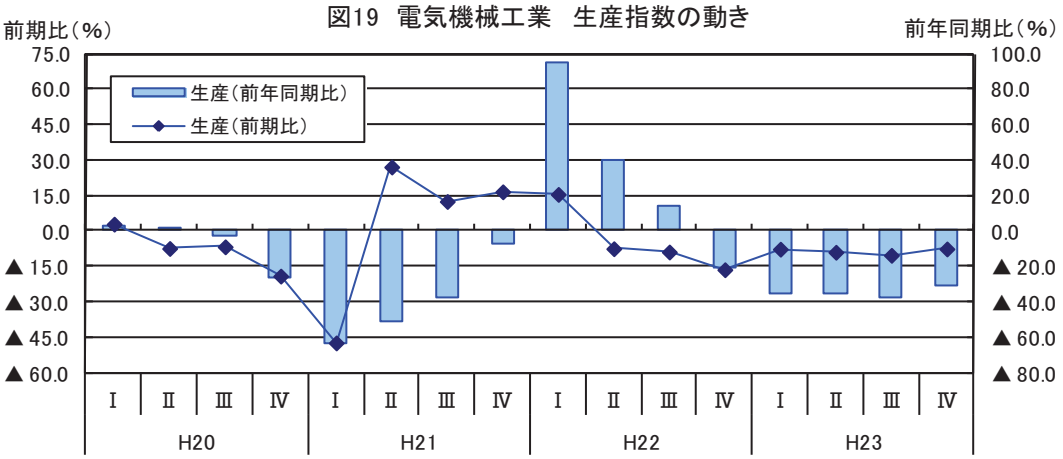


② 生　産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は▲7.7%、Ⅱ期▲9.0%、Ⅲ期▲10.3%、Ⅳ期▲7.6%と平成 22 年Ⅱ期以降 7 期連続で低下した。

また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲35.1%、Ⅱ期▲35.4%、Ⅲ期▲37.6%、Ⅳ期▲31.5%と平成 22 年Ⅳ期以降 5 期連続で前年を下回った（図 19）。

図19　電気機械工業　生産指数の動き

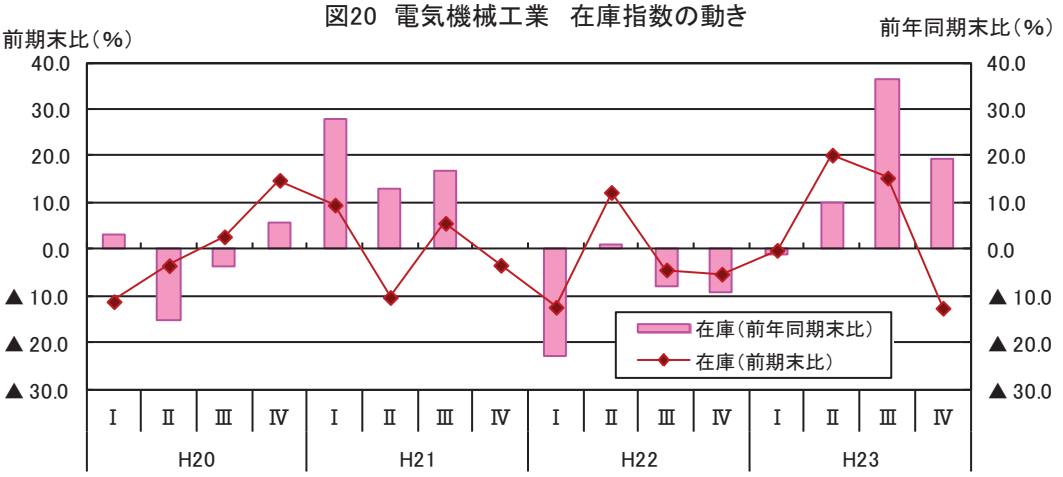


③ 在　庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲0.2%と平成 22 年Ⅲ期以降 3 期連続で低下し、Ⅱ期 20.2%、Ⅲ期 15.3%と上昇したが、Ⅳ期▲12.6%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲1.3%と平成 22 年Ⅲ期以降 3 期連続で前年を下回ったが、Ⅱ期 9.9%、Ⅲ期 36.5%、Ⅳ期 19.1%と再び 3 期連続で前年を上回った（図 20）。

図20　電気機械工業　在庫指数の動き



（６）輸送機械工業

① 概　況

生産指数は前年比▲16.2%（寄与度▲0.52）低下の 68.2 となり、2 年ぶりに低下した（統計表第 1 表）。これは 3 品目すべて（自動車ボデー、自動車部品、二輪自動車部品）が減少したことによる（表 6）。

在庫指数は前年末比 7.3%（寄与度 0.22）上昇の 173.9 となり、2 年連続で上昇した。これは 2 品目中、1 品目（二輪自動車部品）が減少したものの、1 品目（自動車部品）が増加したことによる（表 6）。

表6　品目別生産指数（年平均）・在庫指数（年末）

平成17年=100

	ウェイト（万分比）	生産指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年比（%）	寄与度（%ポイント）	ウェイト（万分比）	在庫指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年末比（%）	寄与度（%ポイント）
輸送機械工業	**342.4**	81.4	68.2	▲ 16.2	▲ 0.52	**155.9**	162.0	173.9	7.3	0.22
自動車ボデー	245.5	74.5	60.8	▲ 18.4	▲ 0.38	－	－	－	－	－
自動車部品	74.1	100.0	89.0	▲ 11.0	▲ 0.09	133.4	103.1	129.7	25.8	0.42
二輪自動車部品	22.8	96.3	80.7	▲ 16.2	▲ 0.04	22.5	511.3	436.2	▲ 14.7	▲ 0.20

寄与度は鉱工業に対する数値

図21　輸送機械工業　月別季節調整済指数（平成17年＝100）

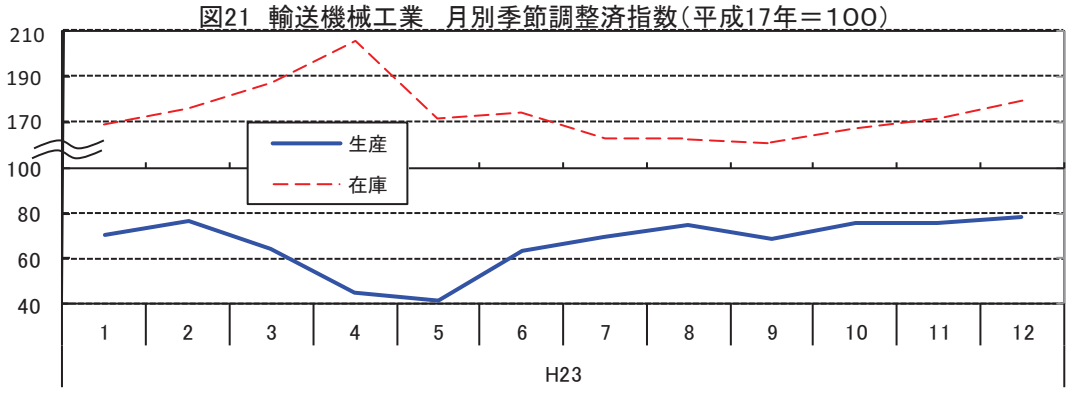
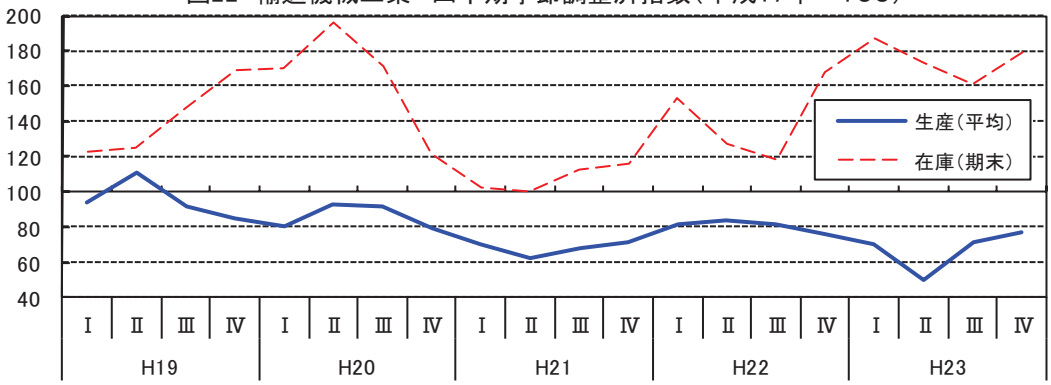


図22　輸送機械工業　四半期季節調整済指数（平成17年＝100）

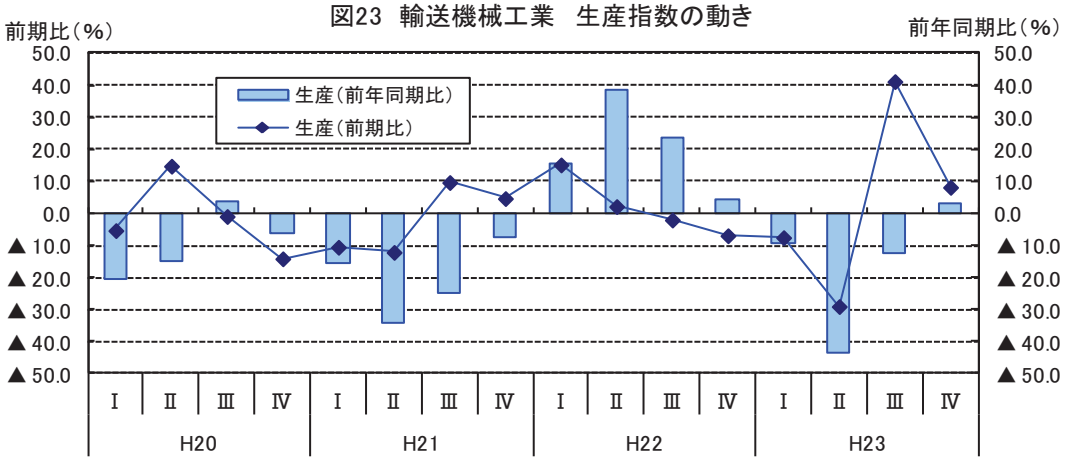


② 生　産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲7.5%、Ⅱ期▲29.0%と平成22年Ⅲ期以降4期連続で低下したが、Ⅲ期41.2%、Ⅳ期8.2%と2期連続で上昇した。

また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲9.3%、Ⅱ期▲43.5%、Ⅲ期▲12.4%と3期連続で前年を下回ったが、Ⅳ期3.2%と前年を上回った（図23）。

図23　輸送機械工業　生産指数の動き

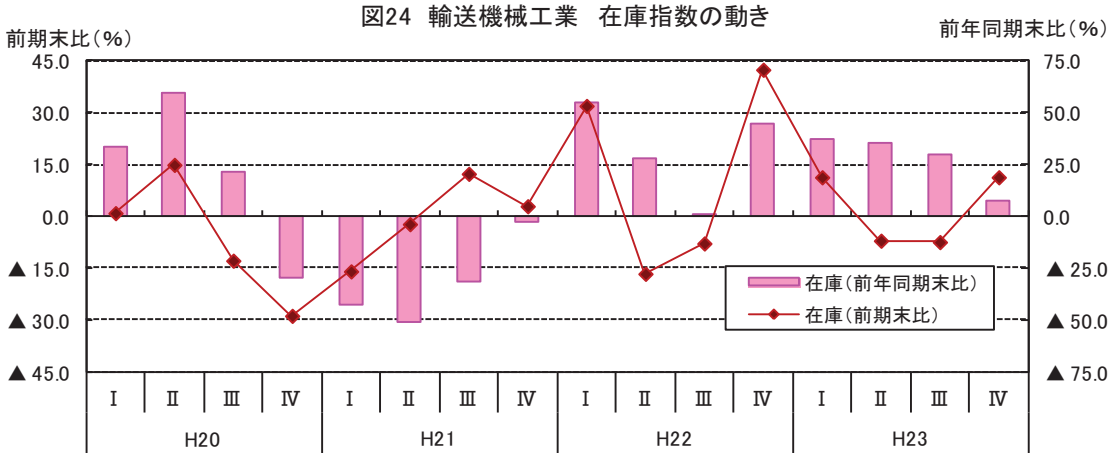


③ 在　庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期11.4%と上昇し、Ⅱ期▲7.0%、Ⅲ期▲7.4%と低下したが、Ⅳ期11.4%と再び上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期36.9%、Ⅱ期35.1%、Ⅲ期30.1%、Ⅳ期7.3%と平成22年Ⅰ期以降8期連続で前年を上回った。（図24）。

図24　輸送機械工業　在庫指数の動き



（7）窯業・土石製品工業

① 概　況

生産指数は前年比 2.5%（寄与度 0.06）上昇の 90.0 となり、2 年連続で上昇した（統計表第 1 表）。これは 6 品目中、3 品目（生コンクリート、ファインセラミックス、その他窯業・土石製品）が減少し、1 品目（セメント製品）が横ばいとなったものの、2 品目（ガラス製品、炭素製品）が増加したことによる（表 7）。

在庫指数は前年末比▲7.5%（寄与度▲0.20）低下の 46.9 となり、3 年連続で低下した。これは 5 品目中、2 品目（ガラス製品、ファインセラミックス）が増加したものの、3 品目（セメント製品、炭素製品、その他窯業・土石製品）が減少したことによる（表 7）。

表7　品目別生産指数（年平均）・在庫指数（年末）

平成17年=100

	ウェイト（万分比）	生産指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年比（%）	寄与度（%ポイント）	ウェイト（万分比）	在庫指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年末比（%）	寄与度（%ポイント）
窯業・土石製品工業	**236.9**	87.8	90.0	2.5	0.06	**433.0**	50.7	46.9	▲ 7.5	▲ 0.20
ガラス製品	62.5	78.2	87.2	11.5	0.06	15.8	109.7	153.7	40.1	0.08
生コンクリート	59.6	116.0	109.0	▲ 6.0	▲ 0.05	－	－	－	－	－
セメント製品	18.3	71.2	71.2	0.0	0.00	218.3	60.1	52.1	▲ 13.3	▲ 0.21
炭素製品	64.6	90.5	98.9	9.3	0.06	58.1	46.0	36.3	▲ 21.1	▲ 0.07
ファインセラミックス	5.8	88.7	78.0	▲ 12.1	▲ 0.01	7.0	40.3	68.7	70.5	0.02
その他窯業・土石製品	26.1	50.8	47.3	▲ 6.9	▲ 0.01	133.8	31.1	29.3	▲ 5.8	▲ 0.03

寄与度は鉱工業に対する数値

図25　窯業・土石製品工業　月別季節調整済指数（平成17年＝100）

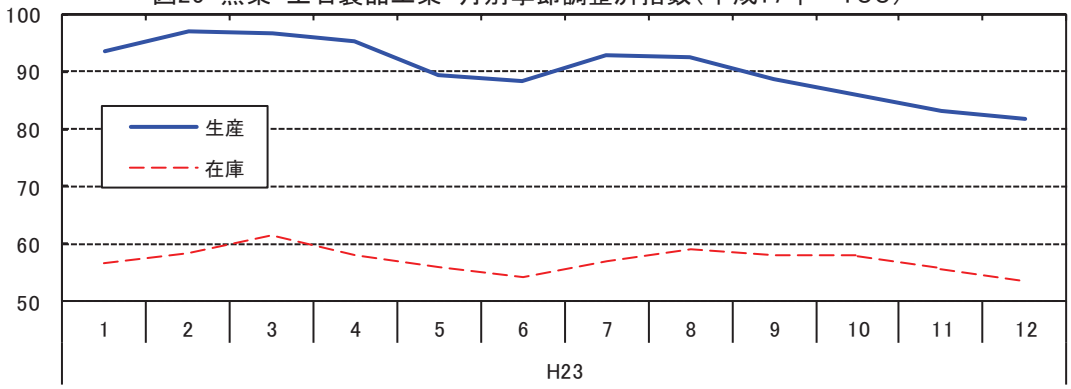
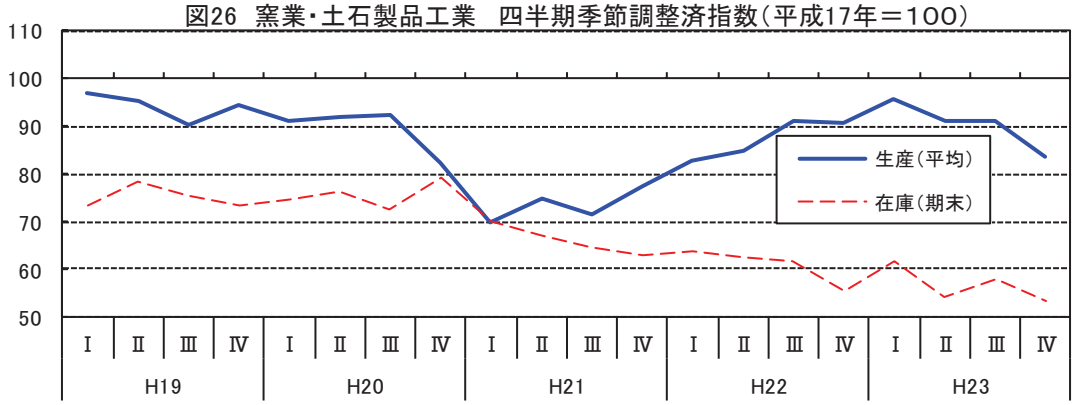


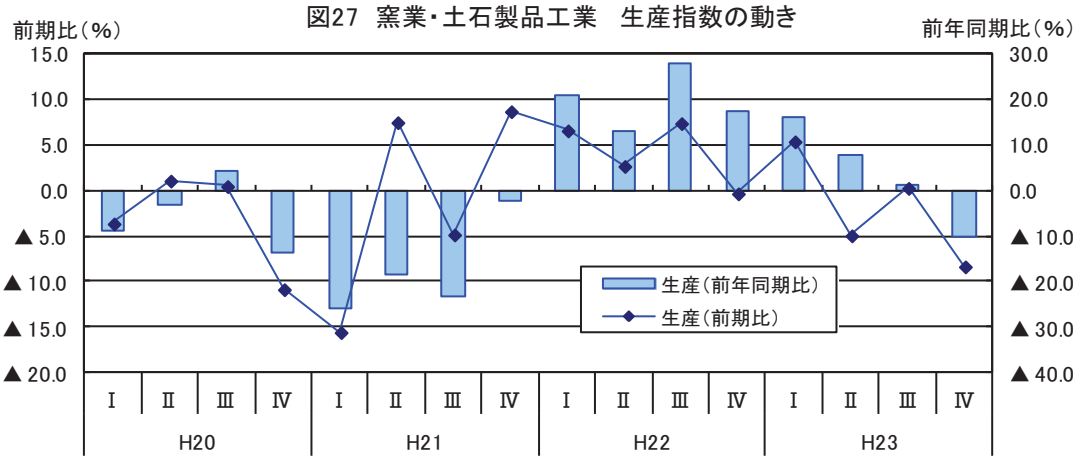
図26　窯業・土石製品工業　四半期季節調整済指数（平成17年＝100）



② 生　産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 5.4%と上昇したが、Ⅱ期▲4.9%と低下し、Ⅲ期 0.3%と上昇したが、Ⅳ期▲8.3%と再び低下した。

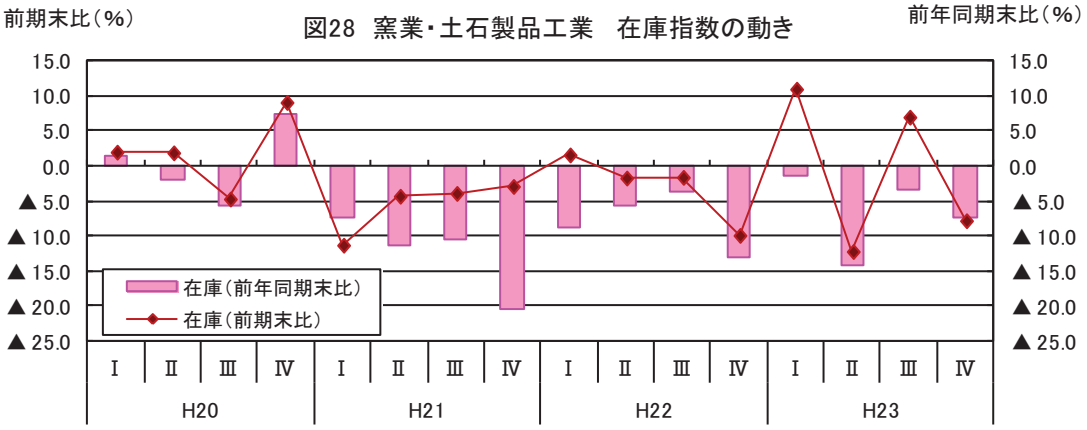
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 16.1%、Ⅱ期 7.7%、Ⅲ期 1.2%と平成 22 年Ⅰ期以降Ⅳ期 7 期連続で前年を上回ったが、Ⅳ期▲10.3%と前年を下回った（図 27）。



③ 在　庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は 11.0%と上昇したが、Ⅱ期▲12.2%と低下し、Ⅲ期 7.0%と上昇したが、Ⅳ期▲7.8%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲1.5%、Ⅱ期▲14.2%、Ⅲ期▲3.3%、Ⅳ期▲7.5%と平成 21 年Ⅰ期以降 12 期連続で前年を下回った（図 28）。



（８）化学工業

① 概　況

生産指数は前年比 34.3%（寄与度 9.45）上昇の 159.4 となり、2 年連続で上昇した（統計表第 1 表）。これは 8 品目中、4 品目（化学肥料、ソーダ工業品、接着剤、医薬品原末・原液）が減少したものの、4 品目（無機化学製品、プラスチック樹脂、その他化学製品、医薬品）が増加したことによる（表 8）。

在庫指数は前年末比 38.7%（寄与度 11.48）上昇の 136.5 となり、2 年ぶりに上昇した。これは 8 品目中、1 品目（ソーダ工業品）が減少したものの、7 品目（化学肥料、無機化学製品、プラスチック樹脂、その他化学製品、接着剤、医薬品原末・原液、医薬品）が増加したことによる（表 8）。

表8　品目別生産指数（年平均）・在庫指数（年末）

平成17年=100

	ウェイト（万分比）	生産指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年比（%）	寄与度（%ポイント）	ウェイト（万分比）	在庫指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年末比（%）	寄与度（%ポイント）
化学工業	**2034.0**	118.7	159.4	34.3	9.45	**2527.2**	98.4	136.5	38.7	11.48
化学肥料	198.4	88.7	87.1	▲ 1.8	▲ 0.04	110.0	66.9	68.1	1.8	0.02
ソーダ工業品	30.8	92.9	92.7	▲ 0.2	▲ 0.00	6.8	104.8	92.2	▲ 12.0	▲ 0.01
無機化学製品	42.3	71.1	73.7	3.7	0.01	26.6	72.4	81.4	12.4	0.03
プラスチック樹脂	251.1	58.2	67.0	15.1	0.25	291.9	73.8	89.9	21.8	0.56
その他化学製品	190.0	92.5	97.9	5.8	0.12	276.6	89.0	113.1	27.1	0.79
接着剤	100.0	90.3	88.5	▲ 2.0	▲ 0.02	133.3	85.8	111.3	29.7	0.41
医薬品原末・原液	132.6	106.8	99.3	▲ 7.0	▲ 0.11	344.9	79.5	90.9	14.3	0.47
医薬品	1088.8	149.3	223.6	49.8	9.23	1337.1	114.9	172.8	50.4	9.23

寄与度は鉱工業に対する数値

図29　化学工業　月別季節調整済指数（平成17年＝100）

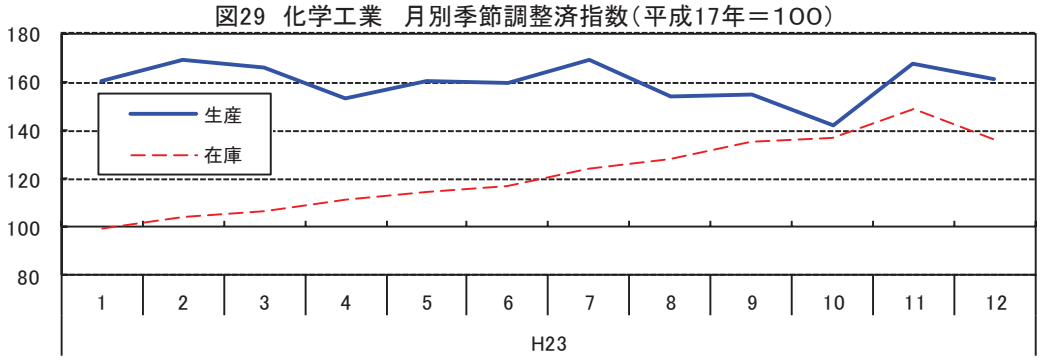
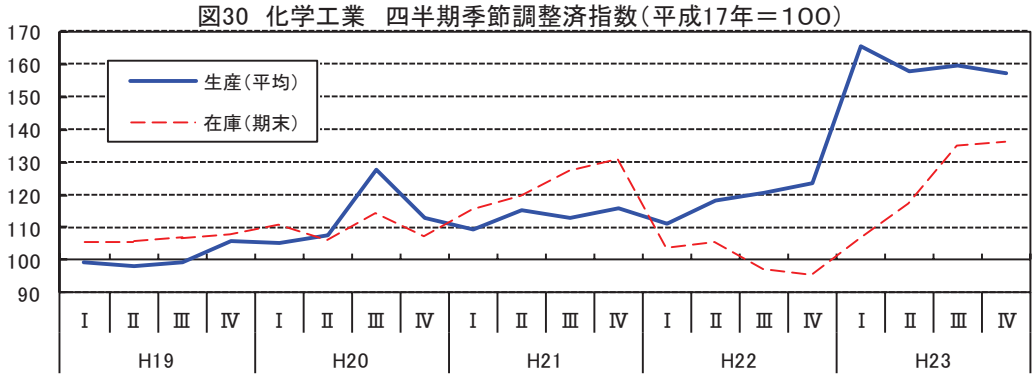


図30　化学工業　四半期季節調整済指数（平成17年＝100）

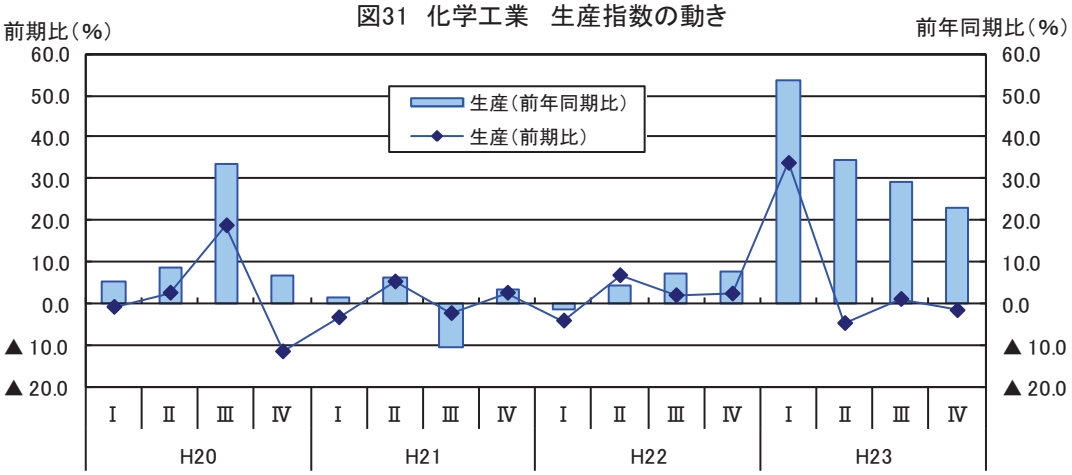


② 生　産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 33.8%と上昇したが、Ⅱ期▲4.7%と低下し、Ⅲ期 1.1%と上昇したが、Ⅳ期▲1.6%と再び低下した。

また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 53.8%、Ⅱ期 34.4%、Ⅲ期 29.2%、Ⅳ期 22.8%と平成 22 年Ⅱ期以降 7 期連続で前年を上回った（図 31）。

図31　化学工業　生産指数の動き

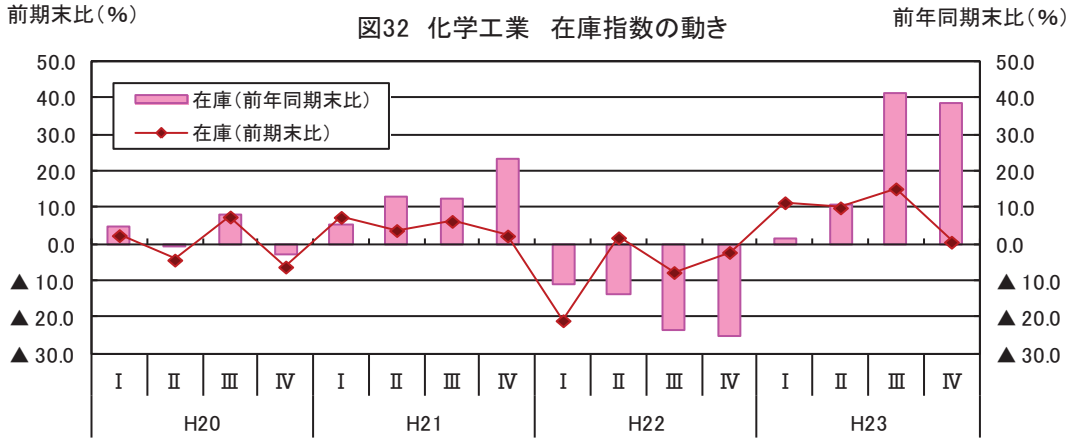


③ 在　庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 11.5%、Ⅱ期 10.1%、Ⅲ期 15.3%、Ⅳ期 0.7%と 4 期連続で上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 1.5%、Ⅱ期 10.8%、Ⅲ期 41.2%、Ⅳ期 38.7%と 4 期連続で前年を上回った（図 32）。

図32　化学工業　在庫指数の動き



（９）プラスチック製品工業

① 概　況

生産指数は前年比▲0.6%（寄与度▲0.02）低下の 70.9 となり、2 年ぶりに低下した（統計表第 1 表）。これは 6 品目中、4 品目（フィルム・シート、容器、日用品雑貨、その他プラスチック製品）が増加したものの、2 品目（機械器具部品、建材・強化製品）が減少したことによる（表 9）。

在庫指数は前年末比 10.4%（寄与度 0.95）上昇の 94.4 となり、2 年連続で上昇した。これは 6 品目中、1 品目（フィルム・シート）が減少したものの、5 品目（機械器具部品、容器、日用品雑貨、建材・強化製品、その他プラスチック製品）が増加したことによる（表 9）。

表9　品目別生産指数（年平均）・在庫指数（年末）

平成17年=100

	ウェイト（万分比）	生産指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年比（%）	寄与度（%ポイント）	ウェイト（万分比）	在庫指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年末比（%）	寄与度（%ポイント）
プラスチック製品工業	**471.9**	71.3	70.9	▲ 0.6	▲ 0.02	**891.3**	85.5	94.4	10.4	0.95
フィルム・シート	27.9	77.0	77.1	0.1	0.00	68.5	94.9	86.0	▲ 9.4	▲ 0.07
機械器具部品	241.8	62.5	56.0	▲ 10.4	▲ 0.18	118.6	48.2	53.3	10.6	0.07
容器	21.0	91.9	100.8	9.7	0.02	70.1	112.1	122.6	9.4	0.09
日用品雑貨	54.5	89.8	102.5	14.1	0.08	325.4	94.6	107.6	13.7	0.50
建材・強化製品	37.5	56.5	51.3	▲ 9.2	▲ 0.02	18.4	41.6	50.5	21.4	0.02
その他プラスチック製品	89.2	83.2	91.4	9.9	0.08	290.3	84.8	94.5	11.4	0.34

寄与度は鉱工業に対する数値

図33　プラスチック製品工業　月別季節調整済指数（平成17年＝100）

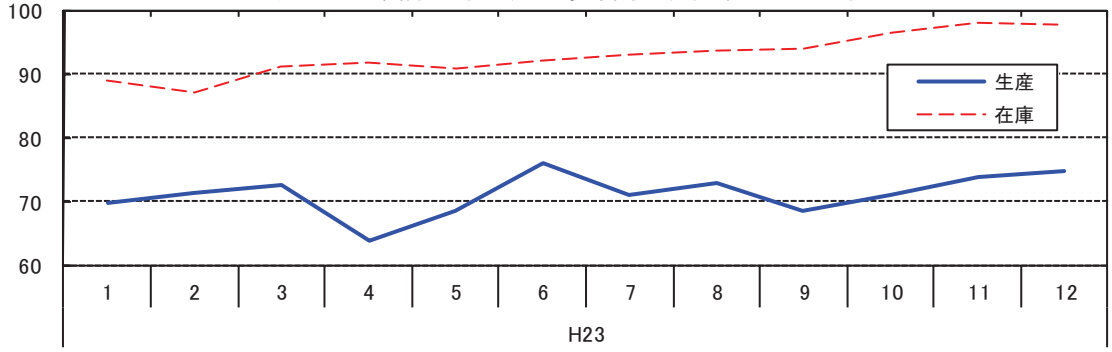
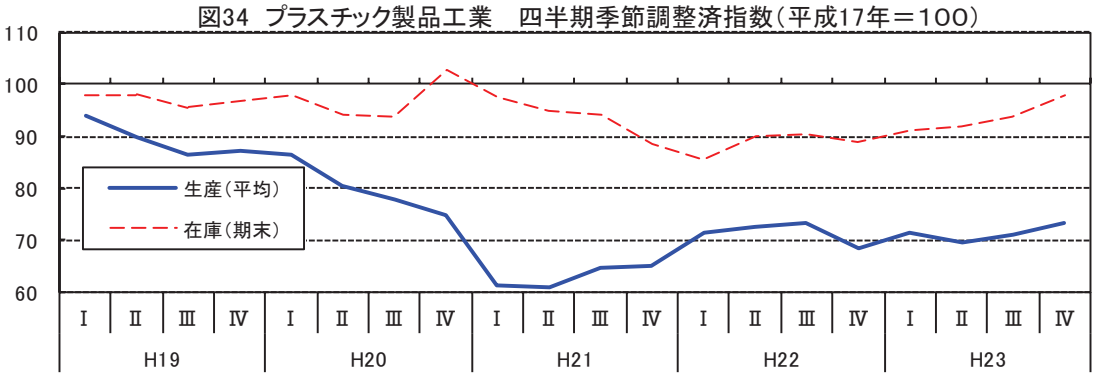


図34　プラスチック製品工業　四半期季節調整済指数（平成17年＝100）

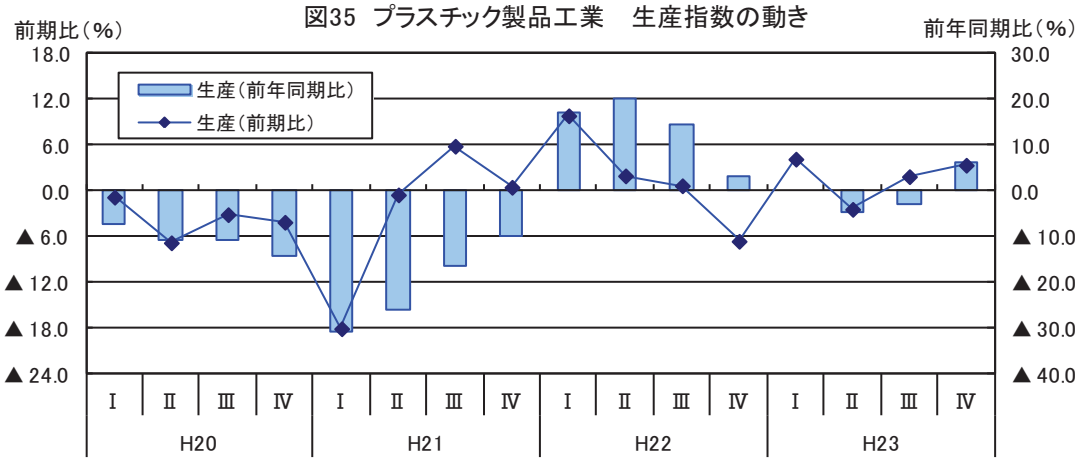


② 生　産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 4.2%と上昇し、Ⅱ期▲2.4%と低下したが、Ⅲ期 1.9%、Ⅳ期 3.4%と上昇した。

また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 0.0%と横ばいとなり、Ⅱ期▲4.7%、Ⅲ期▲3.0%と前年を下回ったが、Ⅳ期 6.0%と前年を上回った（図 35）。

図35　プラスチック製品工業　生産指数の動き

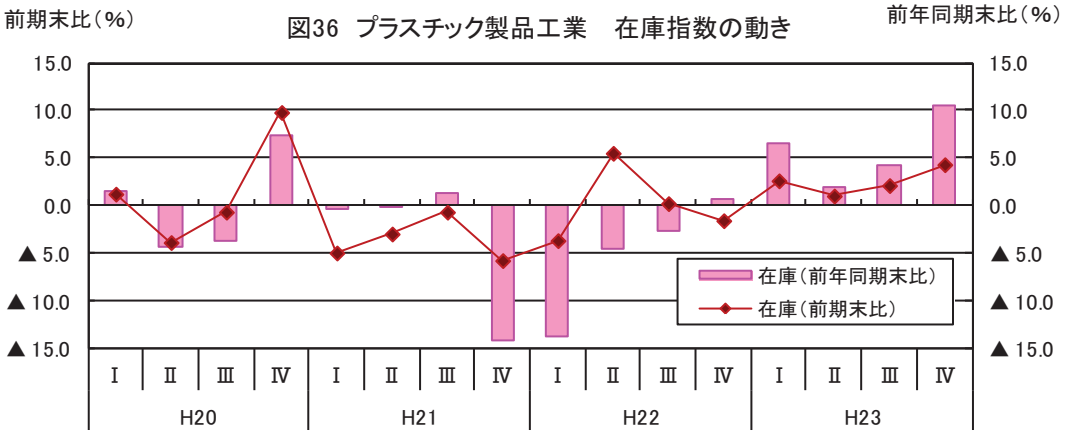


③ 在　庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 2.6%、Ⅱ期 1.0%、Ⅲ期 2.1%、Ⅳ期 4.3%と 4 期連続で上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 6.5%、Ⅱ期 1.9%、Ⅲ期 4.2%、Ⅳ期 10.4%と平成 22 年Ⅳ期以降 5 期連続で前年を上回った（図 36）。

図36　プラスチック製品工業　在庫指数の動き



（10）パルプ・紙・紙加工品工業

① 概　況

生産指数は前年比 1.5%（寄与度 0.07）上昇の 86.3 となり、2 年連続で上昇した（統計表第 1 表）。これは 5 品目中、3 品目（パルプ、紙、その他紙製品）が減少したものの、2 品目（板紙、ダンボール・箱・袋）が増加したことによる（表 10）。

在庫指数は前年末比 4.6%（寄与度 0.47）上昇の 98.5 となり 3 年ぶりに上昇した。これは 5 品目中、1 品目（紙）が減少し、1 品目（パルプ）が横ばいとなったものの、3 品目（板紙、ダンボール・箱・袋、その他紙製品）が増加したことによる（表 10）。

表10　品目別生産指数（年平均）・在庫指数（年末）

平成17年=100

	ウェイト（万分比）	生産指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年比（%）	寄与度（%ポイント）	ウェイト（万分比）	在庫指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年末比（%）	寄与度（%ポイント）
パルプ・紙・紙加工品工業	**467.6**	85.0	86.3	1.5	0.07	**911.5**	94.2	98.5	4.6	0.47
パルプ	40.5	80.4	80.3	▲ 0.1	▲ 0.00	10.9	3.0	3.0	0.0	0.00
紙	185.6	72.4	71.6	▲ 1.1	▲ 0.02	632.4	77.5	72.5	▲ 6.5	▲ 0.38
板紙	33.9	90.0	96.9	7.7	0.03	128.3	103.5	120.4	16.3	0.26
ダンボール・箱・袋	185.3	96.4	99.2	2.9	0.06	93.9	98.6	140.2	42.2	0.47
その他紙製品	22.3	96.6	95.7	▲ 0.9	▲ 0.00	46.0	309.7	331.9	7.2	0.12

寄与度は鉱工業に対する数値

図37　パルプ・紙・紙加工品工業　月別季節調整済指数（平成17年＝100）

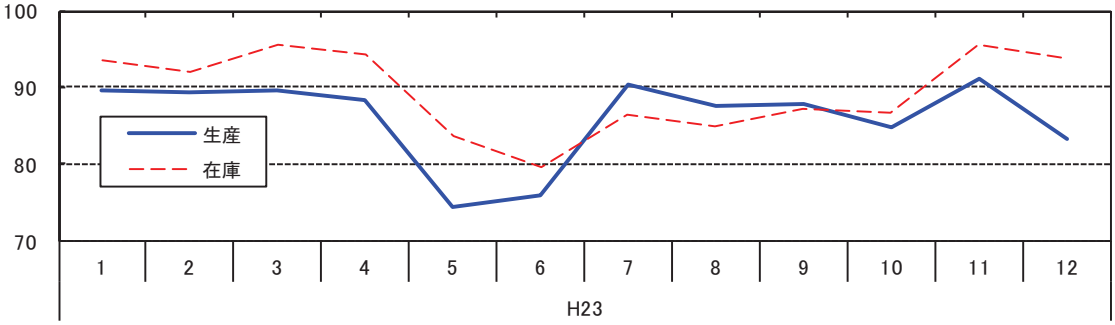
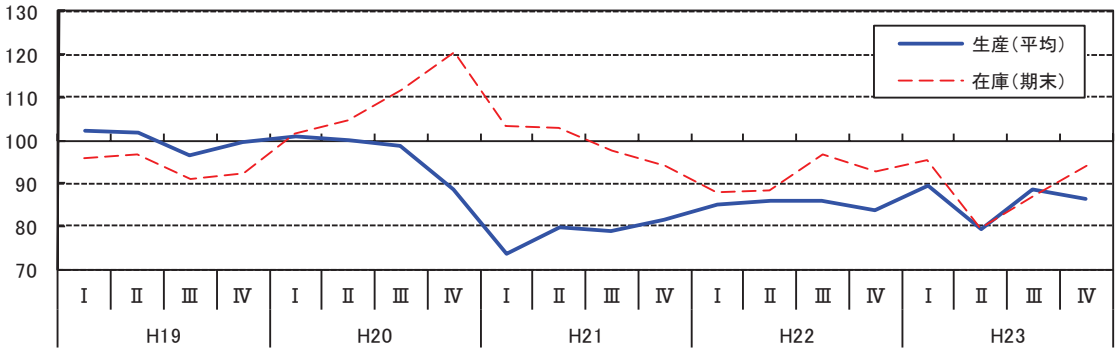


図38　パルプ・紙・紙加工品工業　四半期季節調整済指数（平成17年＝100）

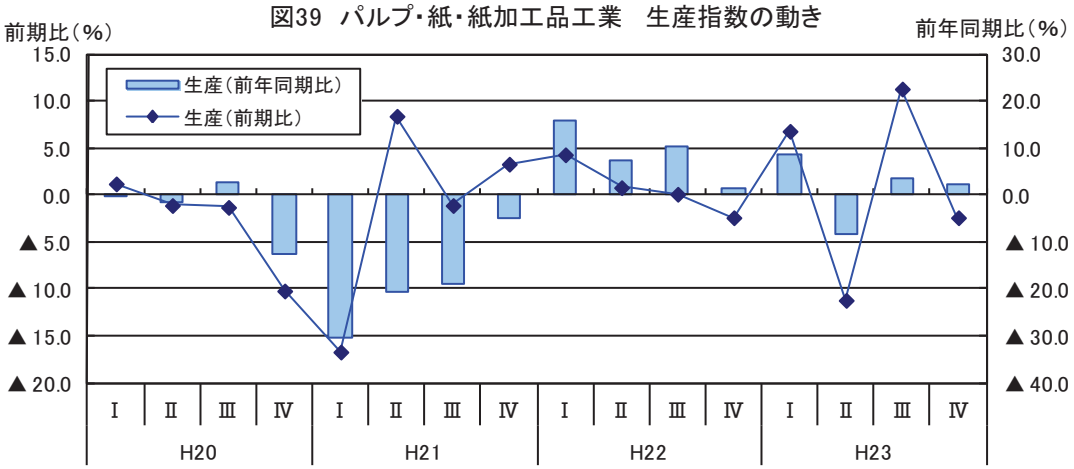


② 生　産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 6.8%と上昇したが、Ⅱ期▲11.2%と低下し、Ⅲ期 11.3%と上昇したが、Ⅳ期▲2.4%と再び低下した。

また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 8.4%と平成 22 年Ⅰ期以降 5 期連続で前年を上回ったが、Ⅱ期▲8.2%と前年を下回り、Ⅲ期 3.7%、Ⅳ期 2.1%と再び前年を上回った（図 39）。

図39　パルプ・紙・紙加工品工業　生産指数の動き

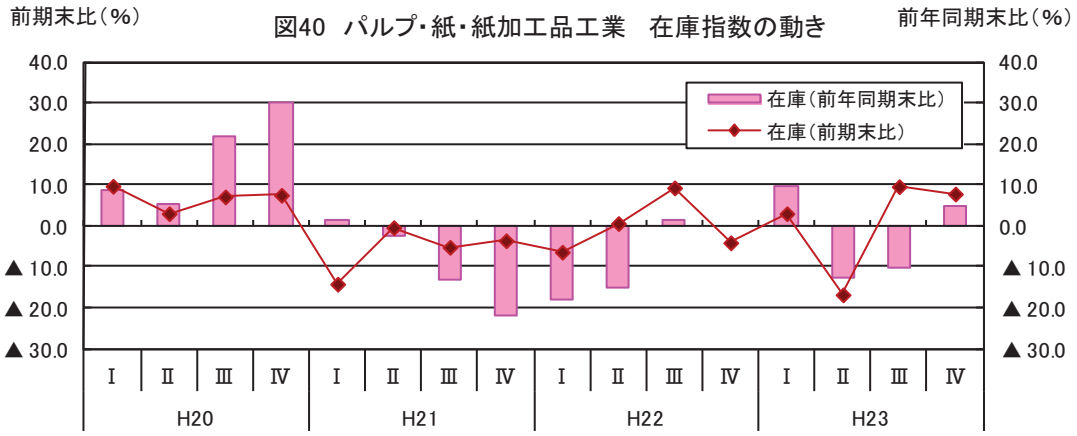


③ 在　庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 3.0%と上昇し、Ⅱ期▲16.8%と低下したが、Ⅲ期 9.6%、Ⅳ期 7.8%と再び上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 9.7%と前年を上回り、Ⅱ期▲12.6%、Ⅲ期▲10.1%と前年を下回ったが、Ⅳ期 4.6%と再び前年を上回った（図 40）。

図40　パルプ・紙・紙加工品工業　在庫指数の動き



（11）繊維工業

① 概　況

生産指数は前年比▲2.2%（寄与度▲0.06）上昇の 61.4 となり、2 年ぶりに低下した（統計表第 1 表）。これは 5 品目中、2 品目（染色整理、衣類）が増加したものの、3 品目（化繊・紡績、織物、その他繊維製品）が減少したことによる（表 11）。

在庫指数は前年末比 2.8%（寄与度 0.13）上昇の 77.7 となり、2 年連続で上昇した。これは 5 品目中、2 品目（染色整理、その他繊維製品）が減少したものの、3 品目（化繊・紡績、織物、衣類）が増加したことによる（表 11）。

表11　品目別生産指数（年平均）・在庫指数（年末）

平成17年=100

	ウェイト（万分比）	生産指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年比（%）	寄与度（%ポイント）	ウェイト（万分比）	在庫指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年末比（%）	寄与度（%ポイント）
繊維工業	**358.4**	62.8	61.4	▲ 2.2	▲ 0.06	**521.2**	75.6	77.7	2.8	0.13
化繊・紡績	135.7	54.9	51.9	▲ 5.5	▲ 0.05	239.3	44.8	48.4	8.0	0.10
織物	84.6	66.3	64.3	▲ 3.0	▲ 0.02	35.7	91.8	113.2	23.3	0.09
染色整理	47.1	70.8	75.8	7.1	0.03	49.3	71.2	70.3	▲ 1.3	▲ 0.01
衣類	25.0	74.4	75.9	2.0	0.00	59.6	293.1	294.7	0.5	0.01
その他繊維製品	66.0	64.3	61.7	▲ 4.0	▲ 0.02	137.3	32.1	28.0	▲ 12.8	▲ 0.07

寄与度は鉱工業に対する数値

図41　繊維工業　月別季節調整済指数（平成17年＝100）

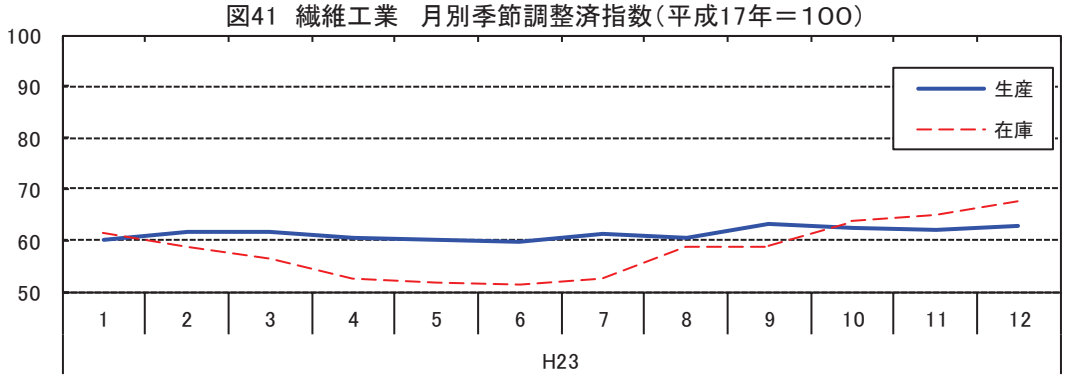
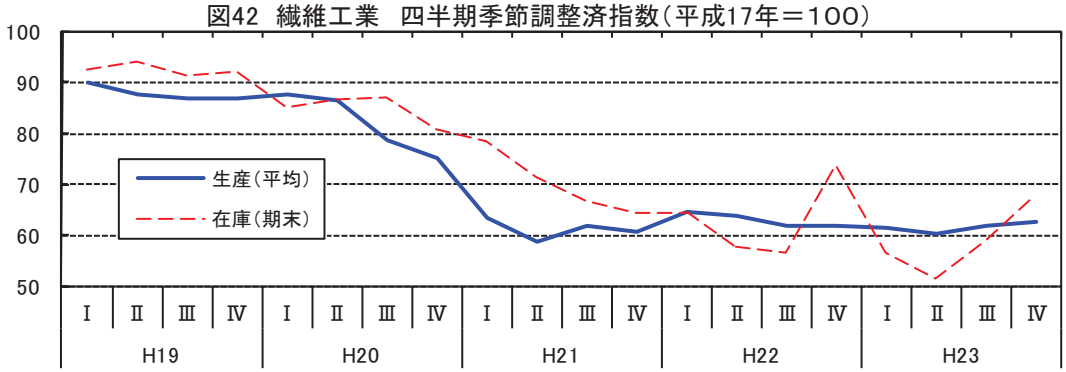


図42　繊維工業　四半期季節調整済指数（平成17年＝100）

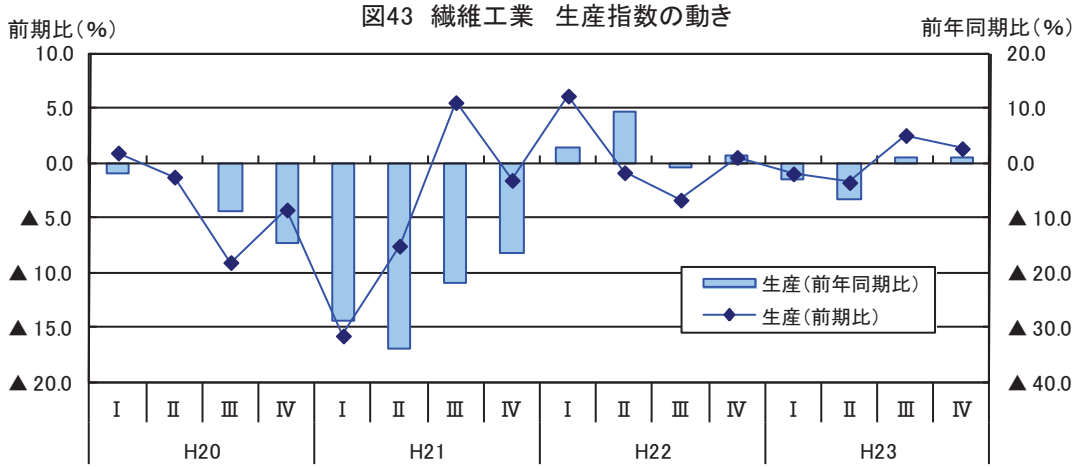


② 生　産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲1.0%、Ⅱ期▲1.8%と低下したが、Ⅲ期 2.5%、Ⅳ期 1.3%と再び上昇した。

また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲3.1%、Ⅱ期▲6.9%と前年を下回ったが、Ⅲ期 1.0%、Ⅳ期 0.8%と再び前年を上回った（図 43）。

図43　繊維工業　生産指数の動き

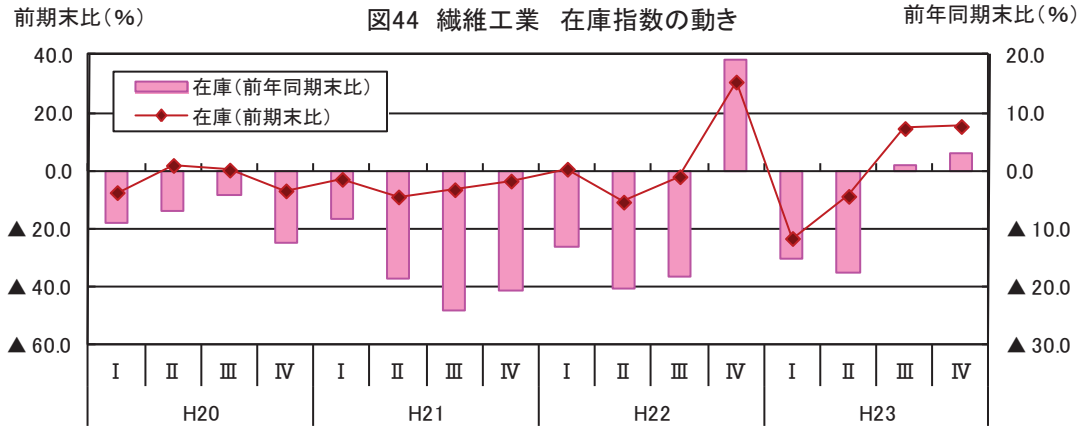


③ 在　庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲23.5%、Ⅱ期▲8.9%と低下したが、Ⅲ期 14.6%、Ⅳ期 15.3%と再び上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲15.2%、Ⅱ期▲17.6%と低下したが、Ⅲ期 1.0%、Ⅳ期 2.8%と再び上昇した（図 44）。

図44　繊維工業　在庫指数の動き



(12) 食料品工業

① 概　況

生産指数は前年比 2.5%（寄与度 0.08）上昇の 102.0 となり、2 年連続で上昇した（統計表第 1 表）。これは 8 品目中、3 品目（調味料、その他食料品工業製品、その他食料品）が減少したものの、5 品目（冷凍調理品、乳製品、畜産製品、惣菜、飲料）が増加したことによる（表 12）。

在庫指数は前年末比▲10.6%（寄与度▲0.82）低下の 68.5 となり、2 年連続で低下した。これは 8 品目中 4 品目（冷凍調理品、乳製品、畜産製品、その他食料品工業製品）が増加したものの、4 品目（調味料、惣菜、飲料、その他食料品）が減少したことによる（表 12）。

表12　品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成17年=100

	ウェイト（万分比）	生産指数(原指数) 平成22年	生産指数(原指数) 平成23年	前年比(%)	寄与度(%ポイント)	ウェイト（万分比）	在庫指数(原指数) 平成22年	在庫指数(原指数) 平成23年	前年末比(%)	寄与度(%ポイント)
食料品工業	**265.3**	99.5	102.0	2.5	0.08	**848.1**	76.6	68.5	▲ 10.6	▲ 0.82
冷凍調理品	26.0	149.6	166.5	11.3	0.05	11.0	56.1	80.3	43.1	0.03
乳製品	28.8	96.9	97.4	0.5	0.00	28.7	88.1	103.2	17.1	0.05
調味料	15.1	87.1	82.6	▲ 5.2	▲ 0.01	34.2	107.1	98.0	▲ 8.5	▲ 0.04
畜産製品	30.1	93.1	97.2	4.4	0.01	7.1	46.2	54.7	18.4	0.01
惣菜	14.3	104.5	110.8	6.0	0.01	3.3	137.4	120.5	▲ 12.3	▲ 0.01
飲料	111.1	100.1	101.1	1.0	0.01	754.2	74.4	64.8	▲ 12.9	▲ 0.86
その他食料品工業製品	0.5	88.6	83.5	▲ 5.8	▲ 0.00	1.8	122.5	136.2	11.2	0.00
その他食料品	39.4	74.2	73.7	▲ 0.7	▲ 0.00	7.8	130.7	129.7	▲ 0.8	▲ 0.00

寄与度は鉱工業に対する数値

図45　食料品工業　月別季節調整済指数(平成17年＝100)

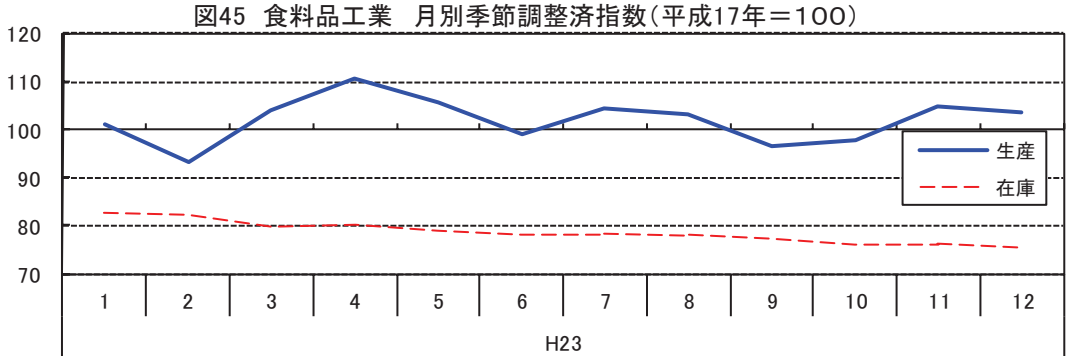
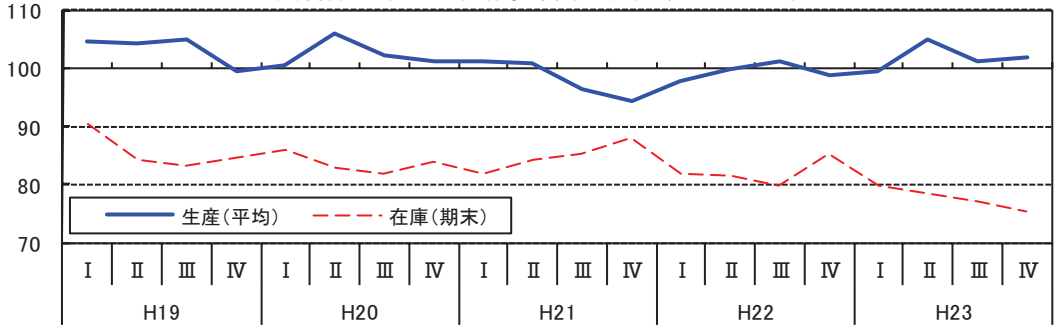


図46　食料品工業　四半期季節調整済指数(平成17年＝100)

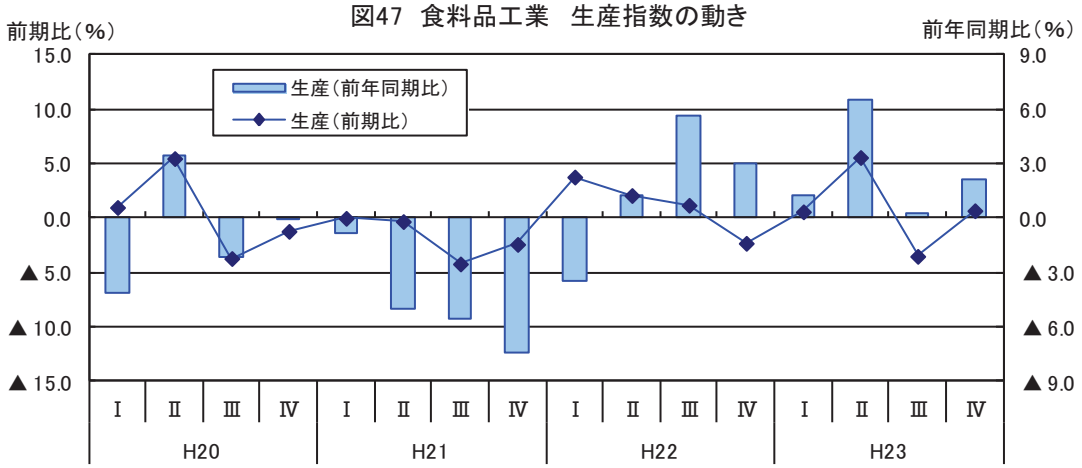


② 生　産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 0.6%、Ⅱ期 5.6%と上昇したが、Ⅲ期▲3.5%と低下し、Ⅳ期 0.7%と再び上昇した。

また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 1.3%、Ⅱ期 6.5%、Ⅲ期 0.3%、Ⅳ期 2.1%と平成 22 年Ⅱ期以降 7 期連続で前年を上回った（図 47）。

図47　食料品工業　生産指数の動き

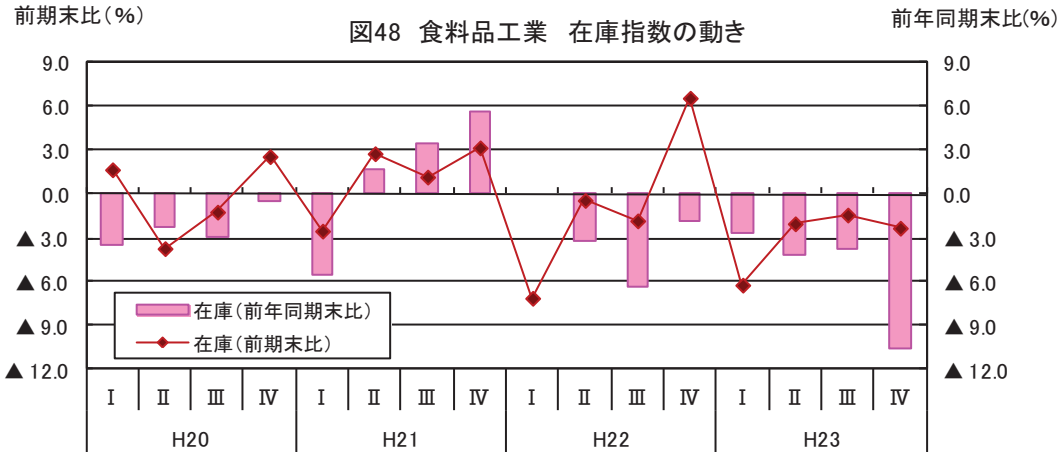


③ 在　庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲6.2%、Ⅱ期▲2.0%、Ⅲ期▲1.4%、Ⅳ期▲2.3%と 4 期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲2.7%、Ⅱ期▲4.2%、Ⅲ期▲3.7%、Ⅳ期▲10.6%と平成 22 年Ⅱ期以降 7 期連続で前年を下回った（図 48）。

図48　食料品工業　在庫指数の動き



(13) その他工業

① 概　況

生産指数は前年比 1.8%（寄与度 0.10）上昇の 88.4 となり、2 年連続で上昇した（統計表第 1 表）。これは 5 品目中、4 品目（ゴム製品工業、印刷業、木材・木製品工業、精密機械工業）が減少したものの、1 品目（その他製品工業）が増加したことによる（表 13）。

在庫指数は前年末比 13.8%（寄与度 0.28）上昇の 46.9 となり、4 年ぶりに上昇した。これは 4 品目中、1 品目（木材・木製品工業）が減少したものの、3 品目（ゴム製品工業、精密機械工業、その他製品工業）が増加したことによる（表 13）。

表13　品目別生産指数（年平均）・在庫指数（年末）

平成17年=100

	ウェイト（万分比）	生産指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年比（%）	寄与度（%ポイント）	ウェイト（万分比）	在庫指数（原指数） 平成22年	平成23年	前年末比（%）	寄与度（%ポイント）
その他工業	**557.3**	86.8	88.4	1.8	0.10	**412.8**	41.2	46.9	13.8	0.28
ゴム製品工業	43.2	76.2	75.2	▲ 1.3	▲ 0.00	31.9	72.5	84.5	16.6	0.05
印刷業	107.9	109.6	107.5	▲ 1.9	▲ 0.03	－	－	－	－	－
木材・木製品工業	78.3	48.0	40.7	▲ 15.2	▲ 0.07	270.4	34.0	32.5	▲ 4.4	▲ 0.05
精密機械工業	11.7	221.2	170.4	▲ 23.0	▲ 0.07	38.6	74.5	100.8	35.3	0.12
その他製品工業	316.2	85.2	92.4	8.5	0.26	71.9	36.7	55.3	50.7	0.16

寄与度は鉱工業に対する数値

図49　その他工業　月別季節調整済指数（平成17年＝100）

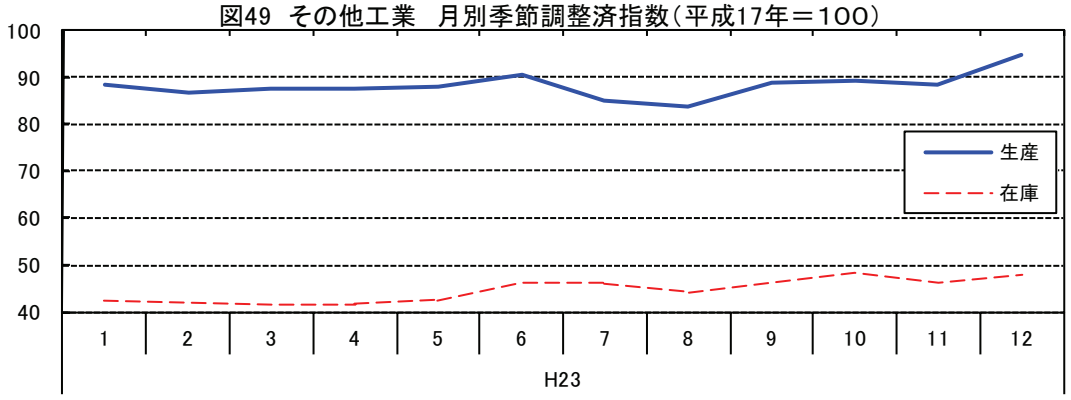
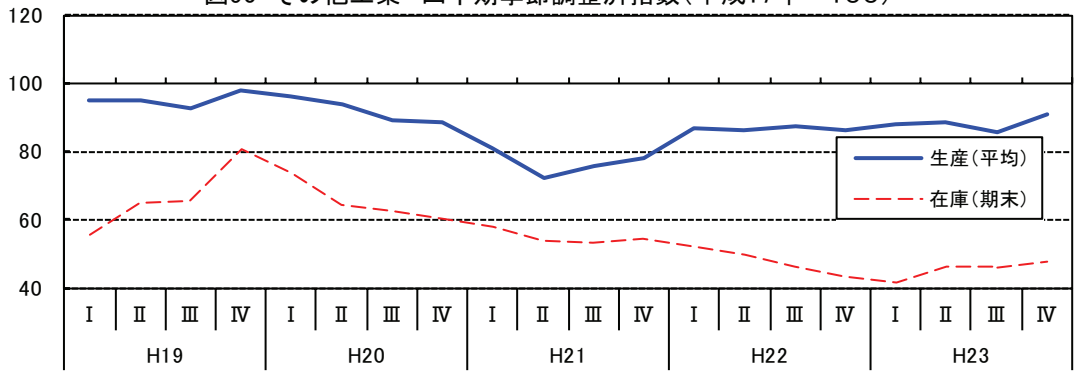


図50　その他工業　四半期季節調整済指数（平成17年＝100）

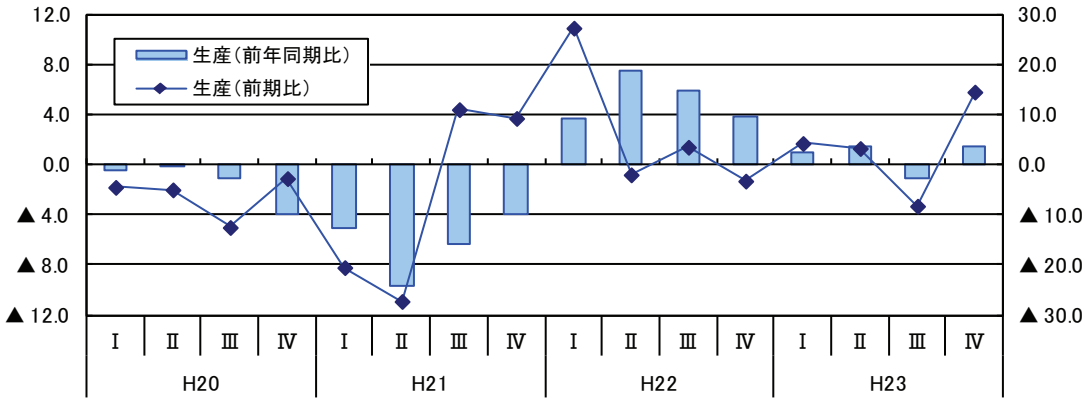


② 生　産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 1.7%、Ⅱ期 1.3%と上昇したが、Ⅲ期▲3.3%と低下し、Ⅳ期 5.8%と再び上昇した。

また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 2.5%、Ⅱ期 3.7%と平成 22 年Ⅰ期以降 6 期連続で前年を上回ったが、Ⅲ期▲2.6%と前年を下回り、Ⅳ期 3.7%と再び前年を上回った（図 51）。

図51　その他工業　生産指数の動き

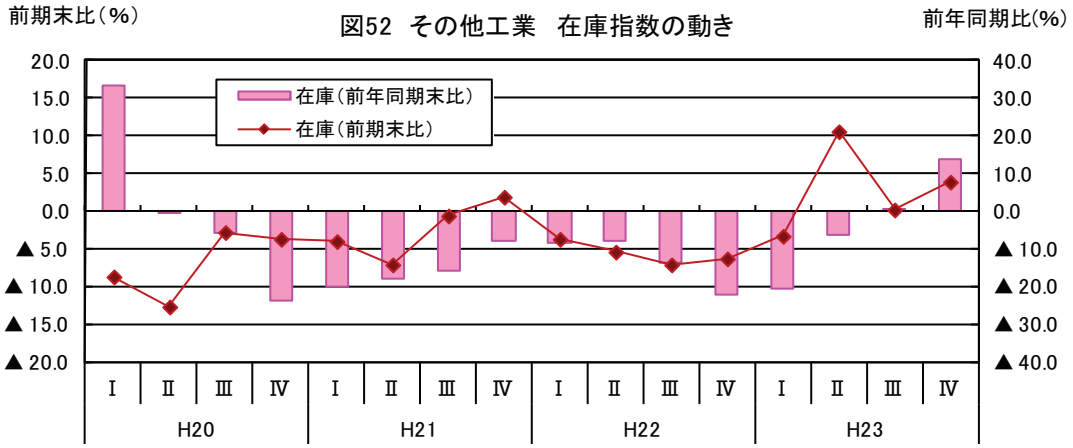


③ 在　庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲3.3%と平成 22 年Ⅰ期以降 5 期連続で低下したが、Ⅱ期 10.6%、Ⅲ期 0.2%、Ⅳ期 3.9%と 3 期連続で上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲20.9%、Ⅱ期▲6.5%と平成 20 年Ⅱ期以降 13 期連続で前年を下回ったが、Ⅲ期 0.7%、Ⅳ期 13.8%と前年を上回った（図 52）。

図52　その他工業　在庫指数の動き



3 財用途別動向

注：財用途別分類及び定義については P3「②特殊分類(財別)」を、品目については P15～16「業種別・財別品目一覧」を参照。

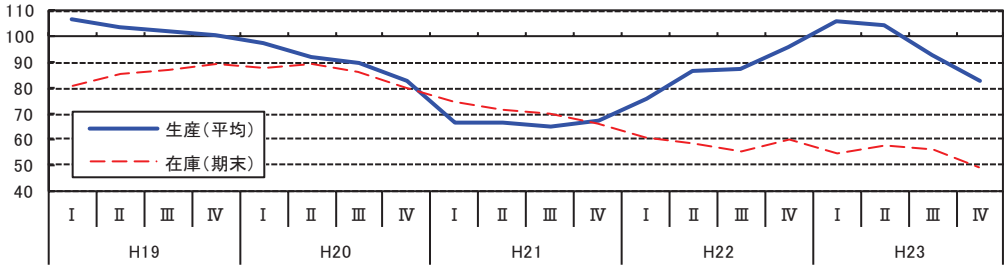
（1）最終需要財

生産は前年比 27.2%上昇の 136.1 となり、在庫は前年末比 16.5%上昇の 105.8 となった（統計表第 2 表･第 11 表･第 13 表）。

① 投資財

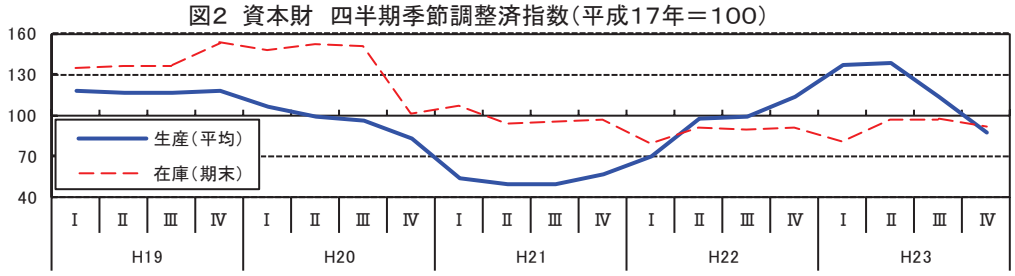
投資財全体では、生産が前年比（原指数）11.1%上昇の 96.0 となり、在庫が前年末比▲18.3%低下の 49.1 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、Ⅰ期 10.8%と平成 21 年Ⅳ期以降 6 期連続で上昇したが、Ⅱ期▲1.7%、Ⅲ期▲10.9%、Ⅳ期▲11.2%と 3 期連続で低下した（図 1、統計表第 2 表･第 11 表･第 12 表･第 13 表）。

図1 投資財 四半期季節調整済指数（平成17年＝100）



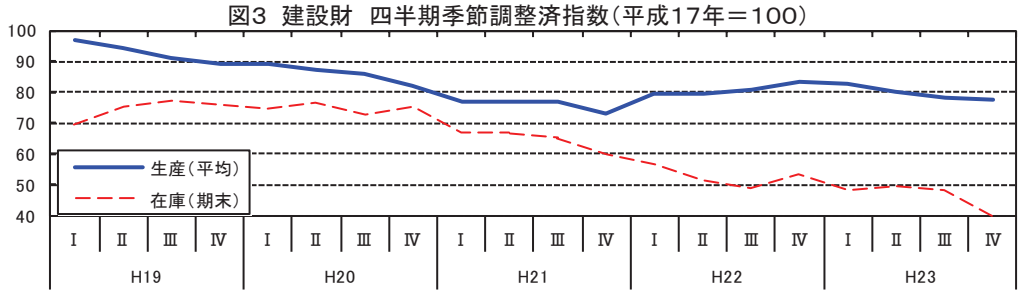
投資財のうち**資本財**は、生産が前年比 26.6%上昇の 119.0 となり、在庫が前年末比 2.9%上昇の 92.8 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、Ⅰ期、Ⅱ期と平成 21 年Ⅳ期以降 7 期連続で上昇したが、Ⅲ期、Ⅳ期と低下した（図 2）。

図2 資本財 四半期季節調整済指数（平成17年＝100）



また、**建設財**は、生産が前年比▲1.7%低下の 79.6 となり、在庫が前年末比▲25.5%低下の 40.1 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期と 4 期連続で低下した（図 3）。

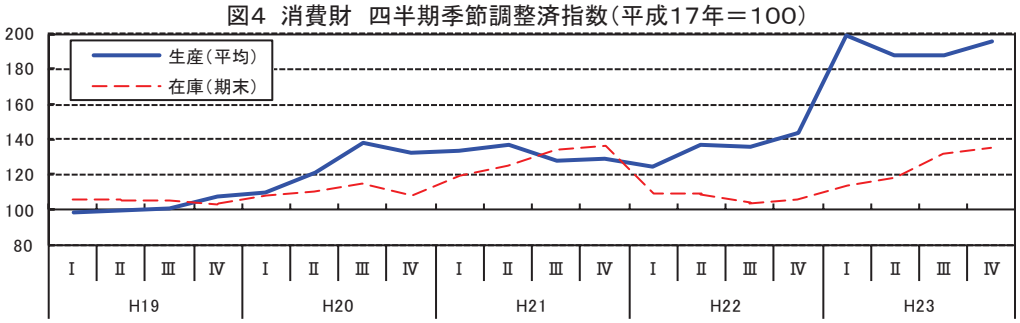
図3 建設財 四半期季節調整済指数（平成17年＝100）



② 消費財

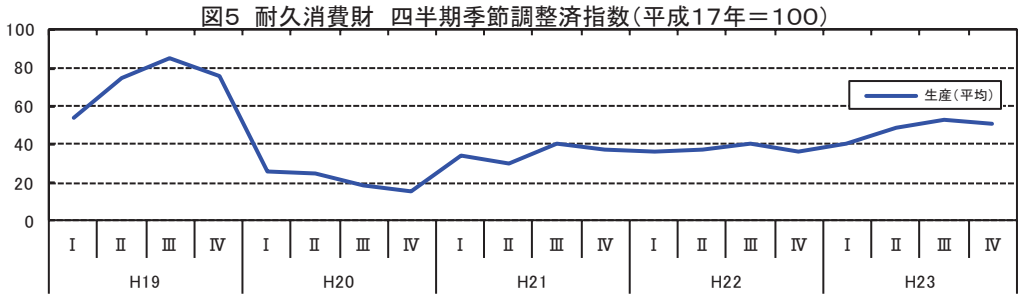
消費財全体では、生産が前年比（原指数）41.4%上昇の 191.8 となり、在庫が前年末比 26.9%上昇の 136.2 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、Ⅰ期 38.7%と上昇し、Ⅱ期▲5.5%、Ⅲ期▲0.1%と低下したが、Ⅳ期 4.6%と再び上昇した（図 4、統計表第 2 表･第 11 表･第 12 表･第 13 表）。

図4 消費財 四半期季節調整済指数（平成17年＝100）



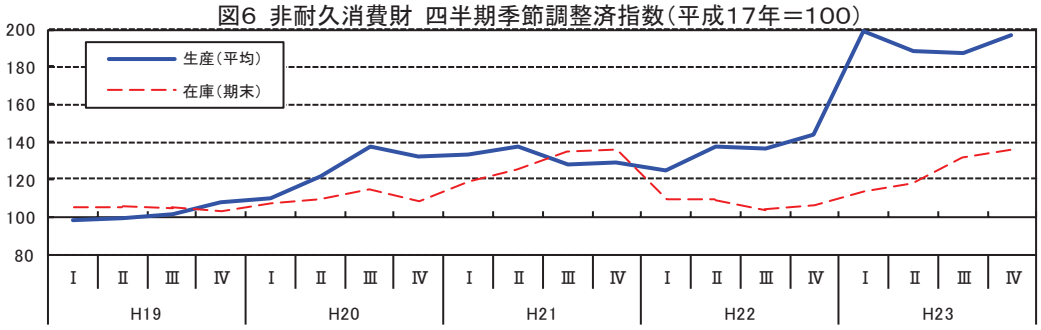
消費財のうち**耐久消費財**は、生産が前年比 29.8%上昇の 48.4 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期と平成 22 年Ⅳ期以降 4 期連続で上昇したが、Ⅳ期は低下した（図 5）。

図5 耐久消費財 四半期季節調整済指数（平成17年＝100）



非耐久消費財は、生産が前年比 41.4%上昇の 191.9 となり、在庫が前年末比 26.9%上昇の 136.2 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、Ⅰ期は上昇し、Ⅱ期、Ⅲ期と低下したが、Ⅳ期は再び上昇した（図 6）。

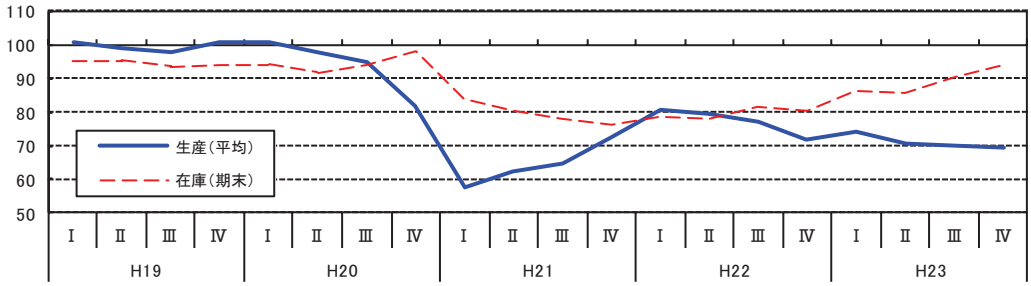
図6 非耐久消費財 四半期季節調整済指数（平成17年＝100）



（２）生産財

生産財全体では、生産が前年比（原指数）▲8.0%低下の 71.0 となり、在庫が前年末比 16.5%上昇の 92.4 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、Ⅰ期 3.8%と上昇したが、Ⅱ期▲5.1%、Ⅲ期▲0.3%、Ⅳ期▲1.0%と 3 期連続で低下した（図 7、統計表第 2 表・第 11 表･第 12 表･第 13 表）。

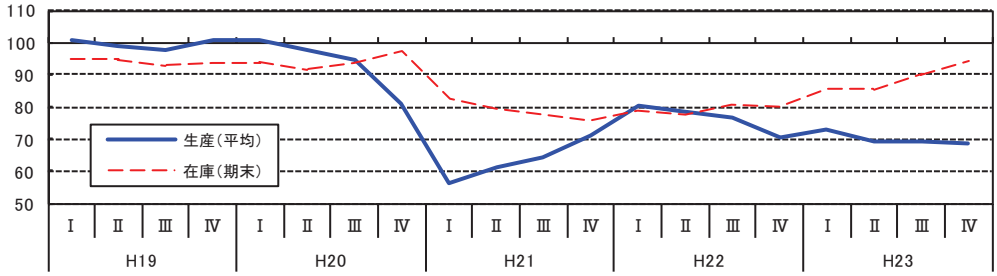
図7 生産財 四半期季節調整済指数（平成17年＝100）



① 鉱工業用生産財

生産財のうち**鉱工業用生産財**は、生産が前年比▲8.5%低下の 69.8 となり、在庫が前年末比 17.5%上昇の 92.6 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、Ⅰ期は上昇したが、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期と 3 期連続で低下した（図 8）。

図8 鉱工業用生産財 四半期季節調整済指数（平成17年＝100）



② その他用生産財

また、**その他用生産財**は、生産が前年比 0.3%上昇の 99.6 となり、在庫が前年末比 0.7%上昇の 89.3 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、Ⅰ期は上昇したが、Ⅱ期は低下し、Ⅲ期は上昇したが、Ⅳ期は再び低下した（図 9）。

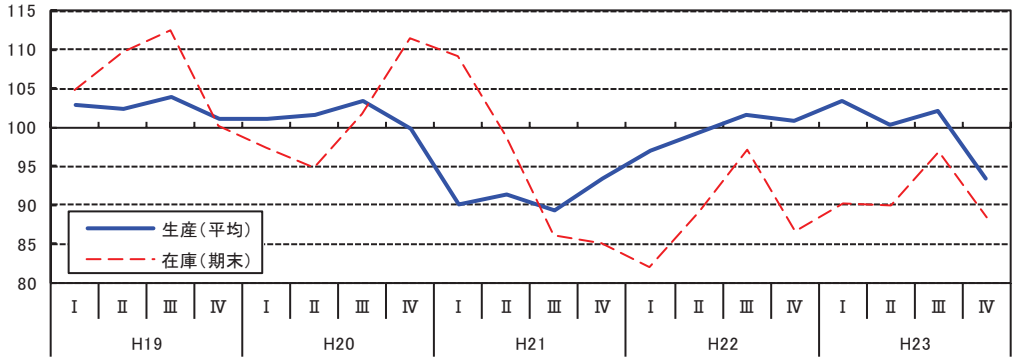



図9 その他用生産財 四半期季節調整済指数（平成17年＝100）